



Sun Java™ System

アイデンティティーインストールパック
2005Q4M3 リリースノート

Sun Microsystems, Inc.
4150 Network Circle
Santa Clara, CA 95054
U.S.A.

Part No: 819-5563

Copyright © 2006 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

アメリカ合衆国連邦政府の権利 - 商用ソフトウェア。米国政府関係者は、Sun Microsystems, Inc. 標準使用許諾契約、および FAR とその付録の適用条項に従うものとします。

本製品の使用は、使用許諾契約の諸条件に基づいて許可されます。

この配布には、第三者が開発したソフトウェアが含まれている可能性があります。

Sun, Sun Microsystems, Sun ロゴ、Java、SunTone、The Network is the Computer、We're the dot in .com、および iForce は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems Inc. の商標または登録商標です。

UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

この製品は、米国の輸出規制に関する法規の適用および管理下にあり、また、米国以外の国の輸出および輸入規制に関する法規の制限を受ける場合があります。核、ミサイル、生物化学兵器もしくは原子力船に関連した使用またはかかる使用者への提供は、直接的にも間接的にも、禁止されています。このソフトウェアを、米国の輸出禁止国へ輸出または再輸出すること、および米国輸出制限対象リスト（輸出が禁止されている個人リスト、特別に指定された国籍者リストを含む）に指定された、法人、または団体に輸出または再輸出することは一切禁じられています。

Waveset、Waveset Lighthouse、および Waveset ロゴは、Sun Microsystems, Inc. の完全所有子会社である Waveset Technologies の商標です。

Copyright © 2000 The Apache Software Foundation. All rights reserved.

ソースコードを再配布する場合は、上記の著作権表示、本条件の一覧、および下記の免責事項をそのまま掲載する必要があります。バイナリ形式で再配布する場合は、上記の著作権表示、本条件の一覧、および下記の免責事項を、配布物と共に配布するドキュメントおよびその他の資料、またはその両方に転記する必要があります。本製品には、Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>) によって開発されたソフトウェアが含まれています。

Copyright © 2003 AppGate Network Security AB. All rights reserved.

Copyright © 1995-2001 The Cryptix Foundation Limited. All rights reserved.

ソースコードを再配布する場合は、著作権表示、本条件の一覧、および下記の免責事項をそのまま掲載する必要があります。バイナリ形式で再配布する場合は、上記の著作権表示、本条件の一覧、および下記の免責事項を、配布物と共に配布するドキュメントおよびその他の資料、またはその両方に転記する必要があります。本ソフトウェアは CRYPTIX FOUNDATION LIMITED およびコントリビュータにより「現状のまま」で提供され、商品性および特定目的の適合性についての黙示の保証を含みますがこれらに限定されず、いかなる明示または黙示の保証も排除します。本製品のなんらかの使用により発生し、かつ契約、厳格責任または不法行為（過失その他を含む）いずれかの法的責任の法理にもとづき、なんらかの訴因で生じた直接的、間接的、付随的、特別、懲罰的または派生的損害賠償（代替商品もしくはサービスの調達、使用、データもしくは利益の損失または事業の中断を含みますがこれに限定されません）について、CRYPTIX FOUNDATION LIMITED またはコントリビュータは、たとえかかる損害の可能性を通知されていても、一切の法的責任を負いません。

このドキュメントに記載されている第三者の商標、商標名、製品名、およびロゴは、それぞれの所有者の商標または登録商標である場合があります。

目次

アイデンティティインストールパック 2005Q4M3 について

インストール	1-1
サポートされているソフトウェアと環境	1-1
オペレーティングシステム	1-1
アプリケーションサーバー	1-2
ブラウザ	1-2
リポジトリデータベースサーバー	1-3
Sun Identity Manager Gateway	1-3
サポートされているリソース	1-3
CRM (Customer Relationship Management)	1-3
データベース	1-3
ディレクトリ	1-3
ERP (Enterprise Resource Planning)	1-4
ヘルプデスク	1-4
メッセージプラットフォーム	1-4
メッセージキュー	1-4
オペレーティングシステム	1-4
セキュリティマネージャー	1-5
Web Access Control	1-5
Web サーバー	1-6
サポートされなくなるソフトウェア	1-6
データベースサーバー	1-6
オペレーティングシステム	1-6
リソース	1-6
NT4 リソースアダプタの公式サポート	1-6
API のサポート	1-7
非推奨の API	1-8
サポート終了	1-8

アイデンティティインストールパック 2005Q4M3 の機能

新しい機能	2-1
機能の概要	2-1
マニュアル	2-2
管理者インタフェースとユーザーインタフェース	2-5
「リソース」 ページ	2-5
「リソース」 ページでのアプレットビューへの復帰	2-5
「アカウント」 ページでのアプレットビューへの復帰	2-6
ビジネスプロセスエディタ	2-7
lh	2-7
ログ	2-7
PasswordSync	2-8

調整と探索	2-8
リポジトリ	2-8
リソース	2-8
ERP リソース	2-8
ディレクトリリソース	2-9
セキュリティ	2-9
サーバー	2-10
ワークフロー	2-10
このリリースで解決された不具合	2-11
管理者インタフェース	2-11
監査	2-12
ビルド	2-12
ビジネスプロセスエディタ	2-12
フォーム	2-12
Identity Auditor	2-13
Identity Manager SPE	2-13
インストールと更新	2-13
javax/mail/MessagingException	2-14
lh コマンド	2-14
使用方法	2-14
オプション	2-15
パラメータ	2-15
ログ	2-15
ローカリゼーション	2-15
PasswordSync	2-16
調整	2-16
レポート	2-16
リポジトリ	2-16
リソース	2-18
Active Sync	2-18
ERP	2-18
ゲートウェイ	2-18
その他のリソース	2-19
レポート	2-22
セキュリティ	2-22
サーバー	2-23
トレース	2-24
ワークフロー	2-24
マニュアル	2-24
解決されたその他の不具合	2-25

既知の問題点

Identity Manager	3-1
一般	3-1
インストールとアップデート	3-3
アカウント管理	3-4

承認	3-6
ログイン設定	3-6
組織	3-6
ポリシーと機能	3-7
ユーザーの調整とインポート	3-7
レポート	3-8
リソース	3-8
リソースオブジェクトの管理	3-11
リソースグループ	3-11
セキュリティ	3-11
Sun Identity Manager Gateway	3-12
タスク	3-12
ワークフロー、フォーム、規則、XPRESS	3-12
Identity Manager SPE	3-14
Identity Auditor	3-15
管理インタフェース	3-15
承認	3-15
監査ポリシー	3-15
レポート	3-16

ドキュメントの追加事項と修正事項

Identity システムソフトウェアガイドについて	4-1
Identity システムソフトウェア	4-1
Identity Manager	4-1
Identity Auditor	4-2
Identity Manager Service Provider Edition	4-2
オンラインガイドの操作	4-2
Install Pack Installation	4-2
追加事項	4-2
修正事項	4-3
Identity Manager 管理ガイド	4-3
追加事項	4-3
Identity Manager Technical Deployment Overview	4-3
プロセス実行	4-3
Identity Manager ユーザーインタフェースのプロセス	4-4
管理者インタフェースのプロセス	4-5
Java Server Pages (JSP) と Identity Manager での その役割	4-9
Identity Manager ユーザーインタフェースの JSP	4-10
管理者インタフェースの JSP	4-10
Identity Manager Tuning, Troubleshooting, and Error Messages	4-11
追加事項	4-11
修正事項	4-11
helpTool の使用	4-12
オンラインヘルプインデックスの再構築 / 再作成	4-12
マニュアルインデックスの再構築 / 再作成	4-14

国際化の有効化

アーキテクチャーの概要	5-1
コンポーネント	5-1
一般的なエントリ	5-2
複数言語のサポートの有効化	5-2
手順 1: ローカライズ版ファイルのダウンロードとインストール	5-2
インストールの前に	5-2
メッセージカタログファイルのダウンロード	5-3
Zip ファイルの内容	5-3
ローカライズ版ファイルのインストール	5-4
手順 2: Waveset.Properties ファイルの編集	5-4
手順 3: <ApplicationDirectory>%sample%18n.xml ファイルの インポート、編集、および読み込み	5-4

カスタマイズされたメッセージカタログ

メッセージカタログの形式	6-1
カスタマイズされたメッセージカタログの作成	6-2
例	6-3

非推奨の API

非推奨のコンストラクタ	7-1
非推奨のメソッドとフィールド	7-2
com.waveset.adapter.AccessManagerResourceAdapter	7-3
com.waveset.adapter.ACF2ResourceAdapter	7-3
com.waveset.adapter.ActiveSync	7-3
com.waveset.adapter.ActiveSyncUtil	7-3
com.waveset.adapter.ADSIResourceAdapter	7-4
com.waveset.adapter.AgentResourceAdapter	7-4
com.waveset.adapter.AIXResourceAdapter.BlockAcctlter	7-4
com.waveset.adapter.AuthSSOResourceAdapter	7-4
com.waveset.adapter.ClearTrustResourceAdapter	7-4
com.waveset.adapter.DatabaseTableResourceAdapter	7-5
com.waveset.adapter.DB2ResourceAdapter	7-5
com.waveset.adapter.DominoResourceAdapter	7-5
com.waveset.adapter.DominoResourceAdapterBase	7-5
com.waveset.adapter.ExampleTableResourceAdapter	7-5
com.waveset.adapter.GenericScriptResourceAdapter	7-6
com.waveset.adapter.GetAccessResourceAdapter	7-6
com.waveset.adapter.HostConnectionPool	7-6
com.waveset.adapter.HostConnPool	7-6
com.waveset.adapter.iapi.IAPIFactory	7-7
com.waveset.adapter.IDMResourceAdapter	7-7
com.waveset.adapter.INISafeNexessResourceAdapter	7-7
com.waveset.adapter.LDAPResourceAdapterBase	7-7
com.waveset.adapter.MySQLResourceAdapter	7-8
com.waveset.adapter.NaturalResourceAdapter	7-8

com.waveset.adapter.NDSResourceAdapter	7-9
com.waveset.adapter.ONTDirectorySmartResourceAdapter	7-9
com.waveset.adapter.OS400ResourceAdapter	7-9
com.waveset.adapter.PeopleSoftComponentActiveSync Adapter	7-9
com.waveset.adapter.RACFResourceAdapter	7-10
com.waveset.adapter.RASecureConnection	7-10
com.waveset.adapter.RedHatLinuxResourceAdapter. BlockAcctlter	7-10
com.waveset.adapter.RequestResourceAdapter	7-10
com.waveset.adapter.ResourceAdapter	7-10
com.waveset.adapter.ResourceAdapterBase	7-11
com.waveset.adapter.ResourceAdapterProxy	7-11
com.waveset.adapter.ResourceManager	7-11
com.waveset.adapter.SAPHRActiveSyncAdapter.	7-12
com.waveset.adapter.SAPResourceAdapter	7-12
com.waveset.adapter.ScriptedConnection	7-12
com.waveset.adapter.ScriptedHostResourceAdapter.	7-12
com.waveset.adapter.SkeletonResourceAdapter	7-13
com.waveset.adapter.SMEResourceAdapter	7-13
com.waveset.adapter.SQLServerResourceAdapter	7-13
com.waveset.adapter.SunAccessManagerResource Adapter	7-13
com.waveset.adapter.SVIDResourceAdapter.BlockAcctlter	7-13
com.waveset.adapter.SybaseResourceAdapter	7-14
com.waveset.adapter.TestResourceAdapter.	7-14
com.waveset.adapter.TopSecretResourceAdapter	7-14
com.waveset.adapter.VerityResourceAdapter	7-14
com.waveset.adapter.XMLResourceAdapter	7-14
com.waveset.msgcat.Catalog	7-15
com.waveset.object.Account.	7-15
com.waveset.object.AccountAttributeType	7-15
com.waveset.object.Attribute	7-15
com.waveset.object.AttributeDefinition	7-16
com.waveset.object.AuditEvent.	7-16
com.waveset.object.CacheManager	7-17
com.waveset.object.Constants	7-17
com.waveset.object.EmailTemplate	7-17
com.waveset.object.Form	7-18
com.waveset.object.GenericObject.	7-18
com.waveset.object.LoginConfig.	7-18
com.waveset.object.MessageUtil	7-18
com.waveset.object.RepositoryResult	7-19
com.waveset.object.RepositoryResult.Row	7-19
com.waveset.object.ResourceAttribute	7-19
com.waveset.object.TaskInstance.	7-20
com.waveset.object.TaskTemplate	7-20

com.waveset.object.Type	7-20
com.waveset.object.UserUIConfig	7-21
com.waveset.object.ViewMaster	7-21
com.waveset.session	7-22
com.waveset.task.TaskContext	7-22
com.waveset.ui.util.FormUtil	7-22
com.waveset.ui.util.html	7-25
com.waveset.util.JSSE	7-25
com.waveset.util.PdfReportRenderer	7-25
com.waveset.util.Quota	7-26
com.waveset.util.ReportRenderer	7-26
com.waveset.util.Trace	7-26
com.waveset.util.Util	7-28
com.waveset.workflow.WorkflowContext	7-28

1 アイデンティティーインストールパック 2005Q4M3 について

Sun Java™ System Identity Installation Pack ソフトウェアへのアップグレードや新規インストールの前に、リリースノートに記載されているインストールとアップグレードに関する注意事項、および付属のドキュメントを参照してください。

インストール

アイデンティティーインストールパック 2005Q4M3 を使用すると、Sun Java™ System Identity Manager、Sun Java™ System Identity Auditor、および Sun Java™ System Identity Manager Service Provider Edition (SPE) を新しい環境にインストールすることや、更新としてインストールすることができます。

Identity Manager、Identity Auditor、および Identity Manager SPE を Identity Manager v5.0 または任意のサービスパックから 5.0 SP6 に更新できます。それよりも古いバージョンの Identity Manager を使用している場合は、最初に Identity Manager v5.0 にアップグレードする必要があります。

製品の詳細なインストール手順については、『Identity Manager Upgrade』および『Identity Install Pack Installation』を参照してください。

サポートされているソフトウェアと環境

ここでは、Identity 製品ソフトウェアと互換性があるソフトウェアや環境を示します。

- オペレーティングシステム
- アプリケーションサーバー
- ブラウザ
- データベースサーバー
- Java Runtime Environment
- Sun Identity Manager Gateway
- サポートされているリソース
- Web サーバー

注 ソフトウェア製品の開発元はソフトウェアの新しいバージョン、更新、および修正を頻繁に出荷するため、ここに公開される情報も頻繁に変更されます。インストールに進む前に、リリースノートで更新情報を確認してください。

オペレーティングシステム

- AIX 4.3.3、5.2、5L v5.3
- HP-UX 11i v1、11i v2

- Microsoft Windows 2000 SP3 以降
- Microsoft Windows 2003
- Solaris 8、9、10 SPARC および x86
- Red Hat Linux Advanced Server 2.1
- Red Hat Linux Enterprise Server 3.0、4.0
- Novell SuSE Linux Enterprise Server 9 SP1

アプリケーションサーバー

Identity Manager で使用するアプリケーションサーバーは、次のリストに特に明記されていない限り、Servlet 2.2 と互換性があり、なおかつ Java プラットフォームが搭載されている必要があります。

- Apache Tomcat
 - バージョン 4.1.x (JDK 1.4.2 搭載)
 - バージョン 5.0.x (JDK 1.4.2 搭載)
- BEA WebLogic® Express 8.1 (JDK 1.4.2 搭載)
- BEA WebLogic® Server™ 8.1 (JDK 1.4.2 搭載)
- IBM WebSphere® 6.0
- IBM WebSphere® Application Server - Express Version 5.1.1 (JDK 1.4.2 搭載)
- Sun™ ONE Application Server 7
- Sun Java™ System Application Server Platform Edition 8
- Sun Java™ System Application Server Platform Edition and Enterprise Edition 8.1

注 現在使用しているアプリケーションサーバーが JDK 1.4.2 をサポートしていない場合は、Identity Installation Pack 2005Q4M3 をインストールする前にベンダーに問い合わせ、JDK 1.4.2 をサポートするアプリケーションサーバーにアップグレードした場合の影響について検証してください。

ブラウザ

- Microsoft Internet Explorer 5.x 以降
- Mac OS X 10.3.3 以降での Safari v2.0 以降
- Mozilla 1.78 (JRE 1.5 搭載)
- Firefox 1.04、1.05、1.06 (JRE 1.5 搭載)

リポジトリデータベースサーバー

- IBM® DB2® Universal Database for Linux、UNIX®、および Windows® (バージョン 7.x、8.1、8.2)
- Microsoft SQL Server™ 2000
- MySQL™ 4.1
- Oracle 9i® および Oracle Database 10g®

Sun Identity Manager Gateway

Windows Active Directory、Novell NetWare、Novell GroupWise、Exchange 5.5、Remedy、Lotus Domino、または RSA ACE/Server のリソースを設定する場合は、Sun Identity Manager Gateway をインストールする必要があります。

サポートされているリソース

Identity 製品ソフトウェアは、次のリソースをサポートします。

CRM (Customer Relationship Management)

- Siebel 6.2、7.0.4、7.7

データベース

- IBM® DB2® Universal Database for Linux、UNIX®、および Windows® (7.x、8.1、8.2)
- Microsoft® Identity Integration Server (MIIS) 2003
- Microsoft SQL Server 2000
- MySQL™ 4.1.x、5.x
- Oracle9i®
- Oracle Database 10g Release 1®
- Sybase Adaptive Server® 12.x

ディレクトリ

- LDAP v3
- Microsoft® Active Directory® 2000、2003
- Novell® eDirectory on Novell NetWare 5.1、6.0
- Open LDAP
- Sun™ ONE Directory Server 4.x

- Sun Java™ System Directory Server 5 2004Q2、2005Q1

注意

- Identity Manager のテストは Sun™ ONE Directory Server と Open LDAP で行われましたが、v3 互換の LDAP サーバーであれば、リソースアダプタへの変更なしで機能します。
- Active Sync を使用している場合、Sun Java™ System Directory Server 5 2005Q1 では Directory Server の旧バージョン形式の更新履歴ログプラグインに対するパッチが必要です。このパッチは、「通常の」レプリケーションに対してのみ必要です。MMR レプリケーションに対しては必要ありません。

ERP (Enterprise Resource Planning)

- Oracle Financials on Oracle Applications 11.5.9、11.5.10
- Peoplesoft® PeopleTools 8.1 ~ 8.4.2 with HRMS 8.0 ~ 8.8
- SAP® R/3 v4.5、v4.6、v4.7
- SAP® Enterprise Portal v6.20 SP2+

ヘルプデスク

- Remedy® Help Desk 4.5、5.0

メッセージプラットフォーム

- Blackberry RIM Enterprise Server 4+ (汎用 Windows スクリプトアダプタを使用)
- Sun Java System Messaging Service および Calender Service
- Lotus Notes® 5.0、6.5、6.5.4 (Domino)
- Microsoft® Exchange 5.5
- Microsoft® Exchange 2000、2003
- Novell® GroupWise 5.x、6.0

注 Microsoft Exchange 2000 および 2003 の管理には、Microsoft Windows Active Directory 2000 および 2003 リソースが使用されます。

メッセージキュー

- JMS Message Queue Listener

オペレーティングシステム

- HP-UX 11.0、11i v1、11i v2
- IBM AIX® 4.3.3、5.2、5L v5.3

- IBM OS/400® V4r3、V5r1
- Microsoft Windows® NT® 4.0
- Microsoft Windows® 2000、2003
- 汎用 Windows スクリプトアダプタ (ゲートウェイを使用)
- Red Hat Linux 8.0、9.0
- Red Hat Linux Advanced Server 2.1
- Red Hat Linux Enterprise Server 3.0、4.0
- Sun Solaris™ 8、9、10
- SuSE Enterprise 9
- HP OpenVMS 7.2

セキュリティーマネージャー

- ActivCard® 5.0
- eTrust CA-ACF2® Security
- Natural
- IBM RACF®
- ScriptedHostResourceAdapter
- INISafe Nexess 1.1.5
- RSA® SecurID® 5.0、6.0
- RSA® SecurID® 5.1、6.0 for UNIX
- eTrust CA-Top Secret® Security 5.3

Web Access Control

- IBM Tivoli® Access Manager 4.x、5.1
- Netegrity® Siteminder® 5.5
- RSA® ClearTrust® 5.0.1
- Sun™ ONE Identity Server 6.0、6.1、6.2
- Sun™ Java System Identity Server 2004Q2
- Sun™ Java System Access Manager 6 2005Q1、7 2005Q4

Web サーバー

注 Identity Manager では、アプリケーションサーバーと Web サーバーの統合は必要ありません。Web サーバーを使用して、ロードバランスの改善と HTTPS プロトコルによるセキュリティの向上を図ることができます。

- Apache 1.3.19
- iPlanet 4.1
- Microsoft Internet Information Server (IIS) 4.0、5.0
- Sun™ ONE Web Server 6

サポートされなくなるソフトウェア

Identity Manager では、アプリケーションサーバー、データベースリポジトリ、管理するリソースとして使用されてきた、次のソフトウェアのサポートを打ち切る予定です。サポートは、Identity Manager の次回の主要リリースが登場するまで続けられます。これらのソフトウェアパッケージの最新バージョンへの移行については、カスタマサポートまでお問い合わせください。

データベースサーバー

- Oracle 8i
- IBM DB2 Universal Database for Linux、UNIX、および Windows 7.0

オペレーティングシステム

- Solaris 7

リソース

- Microsoft Exchange 5.5
- Oracle 8i
- IBM DB2 7.0

NT4 リソースアダプタの公式サポート

改善、向上された新機能を最新のリリースに搭載するにあたり、旧バージョンのサポートを終了 (EOL: End-of-Life) することをご了承ください。EOL の計画は、Microsoft の NT4 オペレーティングシステムのサポート終了に基づいています。Sun は NT オペレーティングシステムのサポートを終了しますが、その他の NT アダプタ機能は引き続きサポートします。Sun は NT4 オペレーティングシステムを使用する顧客に対するサポートを 2006 年末まで継続する予定です。

API のサポート

Identity Manager v6.0 API (アプリケーションプログラミングインタフェース) には、次の表に示す public クラス (および public または protected メソッド、または public クラスのフィールド) が含まれます。

API のタイプ	クラス名
セッション	com.waveset.msgcat.* com.waveset.util.* com.waveset.object.* com.waveset.exception.* com.waveset.expression.* com.waveset.config.* com.waveset.session.SessionUtil com.waveset.session.ScriptSession com.waveset.session.SessionFactory com.waveset.session.Session com.waveset.session.UserViewConstants
アダプタ	com.waveset.adapter.* com.waveset.util.Trace
ポリシー	com.waveset.policy.PolicyImplementation com.waveset.policy.StringQualityPolicy
タスク	com.waveset.task.Executor com.waveset.task.TaskContext
UI	com.waveset.ui.FormUtil com.waveset.ui.util.RequestState com.waveset.ui.util.html.*
ワークフロー	com.waveset.provision.WorkflowServices com.waveset.session.WorkflowServices com.waveset.workflow.WorkflowApplication com.waveset.workflow.WorkflowContext

Identity Manager SPE には、次の表に示す public クラスが追加されています。

API のタイプ	クラス名
SPE	com.sun.idm.idmx.api.IDMXContext com.sun.idm.idmx.api.IDMXContextFactory com.sun.idm.idmx.auditor.* com.sun.idm.idmx.txn.TransactionPersistentStore com.sun.idm.idmx.txn.TransactionQuery com.sun.idm.idmx.txn.TransactionSummary

これらのクラスは、公式にサポートされる唯一のクラスです。これらの表に示されていないクラスを使用する場合は、サポートされるクラスへの移行が必要であるかどうかをカスタマサポートまでお問い合わせください。

非推奨の API

「非推奨の API」では、このリリースで非推奨になったすべての Identity Manager API (アプリケーションプログラミングインタフェース) とその代替となる API (存在する場合) の一覧を示します。

サポート終了

Sun では、お客様が求める品質の基準を達成するために当社製品を進化させることに注力しています。改善、向上された新機能を最新のリリースである Identity Manager v6 に搭載するにあたり、旧バージョンのサポートを終了 (End-of-Life) することをご了承ください。保守計画から外れたリリース上での実行を避けるために、できるだけ早く移行計画を開始されることをお勧めします。以下に具体的なスケジュールを示します。Identity Manager 6.0 (2005Q4M3) へのアップグレード計画の支援については、カスタマサポートまでお問い合わせください。

- Identity Manager 5.5 および Identity Auditor 1.5 とすべてのサービスパックを含む Identity Manager 2005Q3M1 のサポートは 2008 年 3 月まで、またサービスパックの提供は 2007 年 9 月まで継続される予定です。
- Identity Manager 5.0 (すべてのサービスパックを含む) のサポートは 2007 年 9 月まで、またサービスパックの提供は 2006 年 3 月まで継続される予定です。
- Identity Manager 2005Q3M3 は 2006 年 10 月までサポートされ、今後のサービスパックの提供はありません。
- Identity Manager 2005Q1M3 は 2006 年 3 月までサポートされ、今後のサービスパックの提供はありません。
- Lighthouse 4.1 (すべてのサービスパックを含む) は 2006 年 3 月までサポートされ、今後のサービスパックの提供はありません。

- Lighthouse 4.0 (SP1 を含む) のサポートは 2004 年 9 月で終了しました。
- Lighthouse 3.1 (すべてのサービスパックを含む) のサポートは 2005 年 9 月で終了しました。
- Lighthouse 2.0 (すべてのパッチレベルを含む) のサポートは 2004 年 5 月で終了しました。
- Lighthouse 1.x (1.6 を含む) のサポートは 2004 年 5 月で終了しました。

サポート終了

2 アイデンティティーインストールパック 2005Q4M3 の機能

Sun Java™ System Identity Installation Pack ソフトウェアのインストールまたはアップグレードの前に、リリースノートに記載されているインストールとアップグレードに関する注意事項、および最新の Identity Manager v5 サービスパックに付属するドキュメントを参照してください。

新しい機能

この節では、アイデンティティーインストールパック 2005Q4M3 の新機能の概要と詳細を示します。

機能の概要

ここでは、このリリースでの主な新機能の概要を説明します。詳細については、この章の各機能別の節を参照してください。

- Identity Manager のユーザーインターフェースには、新しいナビゲーションタブを備えた新しいスキンが用意されています (ID-11077、11079)。
- 新しいシステムログには、重要な例外に関するログが記録されます。Identity Manager の多くのシステムメッセージとシステムエラーが、標準エラー出力または標準出力に書き込まれる代わりにリポジトリに記録されるようになりました (ID-2914)。
- 「すべて」、「いずれか」、または「ランダム」の質問ポリシーを使用して、ユーザーが独自の認証質問を定義できるようになりました (ID4808)。
- 次の新しいアダプタが利用可能になりました。
 - Java Messaging Server アダプタ (ID-7098)
 - Generic Gateway スクリプトアダプタ (Blackberry をサポート) (ID-9356)
 - Java Enterprise Systems Messaging Service および Calendar Service (ID-9614)
 - SuSE Enterprise 9 アダプタ (ID-6715)
- Novell SuSE Linux Enterprise Server 9 SP1 に Identity Manager をインストールできるようになりました。
- Identity Manager はアプリケーションサーバーとして Websphere 6 をサポートします。
- 既存のアダプタが次のソフトウェアバージョンをサポートするようになりました。
 - Access Manager v7
 - AIX 5L v5.3
 - Employee 以外の Siebel ビジネスコンポーネント内のアカウント管理をサポートする Siebel CRM
 - Lotus 6.5.4 (Domino)

新しい機能

- リソースアダプタ上の機能を無効にできるようになりました。管理者インターフェースを使用して、個別のリソースインスタンスに対して機能を無効化できません (ID-6192)。
- 変更ログのための Meta-Directory の Universal Connector (UTC) 機能が追加されました (ID-7077)。
- アクティブな同期プロセスの間に障害が発生した場合の、代替ドメインコントローラへのフェイルオーバーがサポートされるようになりました (ID-7537)。
- PasswordSync の設計が変更されています。Java Messaging Server メッセージキューと連携して機能するようになりました。詳細については『Identity Manager 管理ガイド』を参照してください (ID-7649、10268、10356)。
- Identity Manager が改ざん防止監査ログをサポートするようになりました。改ざん防止監査ログを有効にする方法と、監査ログの侵害をレポートする方法については、『Identity Manager 管理ガイド』を参照してください (ID-8688)。
- アカウントとリソースの一覧ページが新しくなりました。実行するリソース一覧ビューアを選択するスイッチは、ResourceUIConfig オブジェクトの ResourceListViewer です。有効な値は、新しいビューアを使用する場合の「treetable」と、アカウントアプレットを使用する場合の「applet」です (ID-10496)。
- Identity Manager が承認のデジタル署名をサポートするようになりました。有効化および設定の方法については、『Identity Manager 管理ガイド』を参照してください (ID-9137)。
- ID 属性と呼ばれる新しい機能が Identity Manager に追加されました。ID 属性の設定により、管理ユーザーインターフェース、エンドユーザーインターフェース、Active Sync、一括操作、および SPML を対象にリソース間のデータフローを制御できます (ID-10867)。
- Identity Manager ユーザーをロックできるようになりました (ID-10851)。
- 新しい *helpTool* 機能により、Identity Manager の HTML 形式のオンラインヘルプファイルおよびマニュアルファイルを検索できます。詳細については、「ドキュメントの追加事項と修正事項」の章の「helpTool の使用」を参照してください (ID-11620)。

マニュアル

このリリースでは、『Identity Manager Technical Deployment』および『Identity Manager Technical Reference』が次のマニュアルに再編成されています。

- 『Identity Manager Technical Deployment Overview』— オブジェクトのアーキテクチャなど、Identity Manager 製品の概念面の概要を示し、製品の基本コンポーネントを紹介します。

- 『Identity Manager Workflows, Forms, and Views』 – リファレンスと手順説明を通じて、Identity Manager のワークフロー、フォーム、およびビューの使用方を説明します。これらのオブジェクトをカスタマイズするために必要なツールに関する情報も記載されています。
- 『Identity Manager Deployment Tools』 – リファレンスと手順説明を通じて、各種の Identity Manager 配備ツールの使用方を説明します。規則と規則ライブラリ、共通のタスクとプロセス、辞書のサポート、Identity Manager サーバーによって提供される SOAP ベースの Web サービスインターフェースなどの事項についても説明します。
- 『Identity Manager Resources Reference』 – リファレンスと手順説明を通じて、アカウント情報をリソースから Sun Java™ System Identity Manager にロードして同期する方法を説明します。
- 『Identity Manager Audit Logging』 – リファレンスと手順説明を通じて、アカウント情報をリソースから Sun Java™ System Identity Manager にロードして同期する方法を説明します。
- 『Identity Manager Tuning, Troubleshooting, and Error Messages』 – リファレンスと手順説明を通じて、Identity Manager のエラーメッセージと例外について説明し、作業中に発生する問題を追跡して解決する手順を示します。

次の表に、移動された章と移動先のマニュアルを示します。

『Identity Manager Technical Deployment』の章	移動先のマニュアル
「Introduction to the Business Process Editor」	『Identity Manager Deployment Tools』
「Private Labeling of Identity Manager」	『Identity Manager Technical Deployment Overview』
「Identity Manager Workflow」	『Identity Manager Workflows, Forms, and Views』
「Identity Manager Forms」	『Identity Manager Workflows, Forms, and Views』
「Identity Manager Views」	『Identity Manager Workflows, Forms, and Views』
「Adapter Development」	『Identity Manager Deployment Tools』
「Adding Actions to Resources」	『Identity Manager Resources Reference』
「Identity Manager Auditing」	『Identity Manager Audit Logging』
「Data Loading and Synchronization」	『Identity Manager Technical Deployment Overview』

『Identity Manager Technical Deployment』の章	移動先のマニュアル
「Data Loading Scenarios」	『Identity Manager Technical Deployment Overview』
「LDAP Deployment Scenario」	『Identity Manager Technical Deployment Overview』
「Identity Manager PasswordSync」	『Identity Manager 管理ガイド』（「Synchronizing LDAP Passwords」から章名変更）
「Troubleshooting and Tracing」	『Identity Manager Tuning, Troubleshooting, and Error Messages』
「Configuring Dictionary Support」	『Identity Manager Deployment Tools』
「Configuring User Actions」	『Identity Manager Workflows, Forms, and Views』
「Performance Tuning」	『Identity Manager Tuning, Troubleshooting, and Error Messages』
「Form and Process Mappings」	『Identity Manager Workflows, Forms, and Views』
「Variable Name Spaces」	『Identity Manager Deployment Tools』
「Customized Message Catalogs」	製品ドキュメントから削除
「Enabling Internationalization」	『Identity Manager Technical Deployment Overview』

『Identity Manager Technical Reference』の章	移動先のマニュアル
「XPRESS Language」	『Identity Manager Workflows, Forms, and Views』
「XML Object Language」	『Identity Manager Workflows, Forms, and Views』
「HTML Display Components」	『Identity Manager Workflows, Forms, and Views』
「FormUtil Methods」	『Identity Manager Workflows, Forms, and Views』
「Rules」	『Identity Manager Deployment Tools』
「Workflow Services」	『Identity Manager Workflows, Forms, and Views』
「Identity Manager Web Services」	『Identity Manager Deployment Tools』
「Resources Reference」	『Identity Manager Resources Reference』

『Identity Manager Technical Reference』の章	移動先のマニュアル
「AttrParse」	『Identity Manager Resources Reference』
「Errors and Exceptions」	『Identity Manager Tuning, Troubleshooting, and Error Messages』
「Audit Log Database Schema」	『Identity Manager Audit Logging』
「Firewalls or Proxy Servers」	『Identity Manager Deployment Tools』

管理者インタフェースとユーザーインタフェース

- プロビジョニング解除ページに新しい機能が追加されました (ID-8530)。詳細については『Identity Manager 管理ガイド』を参照してください。
「ユーザーの削除」機能が4つの機能に分かれました。
 - ユーザーの削除
 - ユーザーのプロビジョニング解除
 - ユーザーの割り当て解除
 - ユーザーのリンク解除
 「ユーザーの(一括)削除」が4つの機能に分かれました。
 - ユーザーの(一括)削除
 - ユーザーの(一括)プロビジョニング解除
 - ユーザーの(一括)割り当て解除
 - ユーザーの(一括)リンク解除
- Identity Manager ユーザーをロックできるようになりました (ID-10851)。

「リソース」ページ

- アカウントとリソースの一覧ページが新しくなりました。実行するリソース一覧ビューアを選択するスイッチは、ResourceUIConfig オブジェクトの ResourceListViewer です。有効な値は、新しいビューアを使用する場合の「treetable」と、アカウントアプレットを使用する場合の「applet」です (ID-10496)。

「リソース」ページでのアプレットビューへの復帰

注 `applet` ビューアは非推奨になりました。ここに示す手順は、下位互換性のみを目的としたものです (ID-11415)。

Identity Manager では、「リソース」ページのリソース表示を `applet` ビューに戻すためのスイッチが用意されています。

1. ビジネスプロセスエディタ (BPE) を使用して ResourceUIConfig オブジェクトを開きます。BPE の使用法については、『Identity Manager Deployment Tools』の「Introduction to the Business Process Editor」を参照してください。
2. ResourceListViewer 属性の値 treetable を applet に置き換えます。
`<Attribute name='ResourceListViewer' value='applet' />`
3. オブジェクトを保存して Identity Manager を再起動します。以後、製品の「リソース」ページで applet ビューアが表示されるようになります。

注 treetable ビューアに戻すには、前の手順の属性値 applet を treetable に置き換えます。

「アカウント」ページでのアプレットビューへの復帰

注 applet ビューアは非推奨になりました。ここに示す手順は、下位互換性のみを目的としたものです (ID-11415)。

Identity Manager では、「アカウント」ページのリソース表示を applet ビューに戻すためのスイッチが用意されています。

1. ビジネスプロセスエディタ (BPE) を使用して UserUIConfig オブジェクトを開きます。BPE の使用法については、『Identity Manager Deployment Tools』の「Introduction to the Business Process Editor」を参照してください。
2. UserListViewer 属性の値 treetable を applet に置き換えます。
`<UserListViewer>
 <String>treetable</String>
</UserListViewer>
</UserUIConfig>`
3. オブジェクトを保存して Identity Manager を再起動します。以後、製品の「アカウント」ページで applet ビューが表示されるようになります。

注 treetable ビューアに戻すには、前の手順の属性値 applet を treetable に置き換えます。

- Identity Auditor と Identity Manager の両方で、レポートタイプごとに新しいヘルプページが用意されました。以前のリリースでは、すべてのレポートに共通のヘルプページでした (ID-11279)。

ビジネスプロセスエディタ

- BPE が拡張され、ワークスペースの概念が導入されました。ワークスペースにはリポジトリ接続情報、オプション、ブレークポイント、オープンソース、および自動保存ファイルが保存されます (ID-9857)。
ユーザーインタフェースに多数の変更が行われました。
- BPE の起動時に、新しいワークスペースを選択するか、または「**Create new workspace**」をクリックして新しいワークスペースを作成する必要があります。
- エディタのオプションフォームにあった「**Default server**」、「**Default user**」、「**Default password**」などがなくなりました。現在、これらはすべてワークスペースの一部としてセットアップされます。各ワークスペースは特定のリポジトリと結び付けられます。
- リポジトリメニュー項目への「**File**」>「**Connect**」がなくなりました。接続は常に自動的に行われるようになりました。
- デバッガのメニュー項目から「**Debug**」>「**Breakpoints**」がなくなりました。これは、ブレークポイントダイアログがデバッガパネルの一部になったことに伴う変更です。
- 「**Breakpoints**」パネルで、新しい「**Sources**」ブレークポイントタブにすべてのソースブレークポイントが一覧表示されるようになり、ブレークポイントへの移動やブレークポイントの解除がすばやく行えるようになりました。
- 「**Launch debugger**」ダイアログは廃止されました。この情報はワークスペースの一部となり、デバッガの起動は自動的に行われるようになりました。
- BPE で、TabPanel および WizardPanel の各フォームと、SortingTable、InlineHelp、および ErrorMessage の各フィールドの編集が可能になりました (ID-10418)。

lh

lh スクリプトおよび lh.bat スクリプトで、配備ごとに異なる変数に対して環境ファイルがインポートされるようになりました。たとえば、リポジトリに WebSphere 5 データソースを使用している場合には、追加の環境変数が必要です。この目的のためのサンプルファイルが sample/other/idm-env.*.ws5 に収められています (ID-10443)。

ログ

Identity Manager が承認のデジタル署名をサポートするようになりました。有効化および設定の方法については、『Identity Manager 管理ガイド』を参照してください (ID-9137)。

PasswordSync

- PasswordSync が任意の JMS 対応メッセージキューに対して動作するようになりました (ID-10268)。

調整と探索

調整をスケジュールするときに、スケジュールのカスタマイズに使用する規則の名前を指定できるようになりました。たとえば、規則によって、土曜日にスケジュールされた調整を次の月曜日に延期することができます (ID-8538)。

リポジトリ

- Identity Manager リポジトリは、CLOB 列に対して Oracle 独自の処理を実行するようになりました。Oracle 用のサンプルスクリプトは、(LONG VARCHAR ではなく) CLOB データ型で **xml** 列を定義するようになりました (ID-5286)。
- Identity Manager リポジトリは MySQL 4.1 をサポートするようになり、MySQL 4.0 はサポートされなくなりました。MySQL 4.0 データを保持する場合は、2005Q4M3 リリースへのアップグレードの際に、スクリプト `upgradeto2005Q4M3.mysql` に記述された手順に従って MySQL 4.1 にアップグレードする必要があります (ID-10041)。
- データベースアップグレードスクリプトが、log テーブルに 2 つのオプション列 **sequence** および **xml** を追加するようになりました。これらの列は、ログレコードおよび承認レコードの署名などの新しい機能のために必要なものです (ID-11013)。
- IDM リポジトリの「set」操作のパフォーマンスが向上しました (ID-11673)。

リソース

ERP リソース

- PeopleSoftComplntfcAdapter が、調整、リソースからのロード、およびユーザーの一覧表示をサポートするようになりました (ID-8872)。
- 新しいリソースアダプタ Siebel CRM が利用可能です。このアダプタは、Employee 以外の Siebel ビジネスコンポーネント内のアカウント管理をサポートします (ID-11022)。

ディレクトリリソース

- LDAP リソースアダプタは、Sun Java System Directory Server における Active Sync を介したパスワード変更を検出できるようになりました。この機能を利用するには、ターゲットディレクトリサーバーにカスタムプラグインをインストールする必要があります (詳細は、『Identity Manager Resources Reference』を参照) (ID-8870)。
- LDAP リソースアダプタが、posixGroup エントリの管理 (作成、更新、削除) に加えて、LDAP アカウントへの posixGroup メンバーシップの割り当てをサポートするようになりました (ID-9748)。

ゲートウェイリソース

- Active Sync プロセスの間に障害が発生した場合の、代替ドメインコントローラへのフェイルオーバーがサポートされるようになりました。Active Directory リソースのポーリング中に障害が検出された場合、設定可能なワークフロープロセスを呼び出して、代替ドメインコントローラへのフェイルオーバーを促進することができます (ID-7537)。
- 新しいリソース属性 `Authentication Timeout` が Active Directory リソースアダプタに追加されました。これはパストルー認証のみが対象です。この属性には、ゲートウェイ側に問題がある場合にアダプタがハングアップするのを防ぐ役割があります (ID-9526)。

セキュリティ

- 新しい管理者ロール「User」を使用して、実行時に管理者機能をエンドユーザーに割り当てることができます。詳細は、『Identity Manager 管理ガイド』を参照してください (ID-6607)。
- 「すべて」、「いずれか」、または「ランダム」の質問ポリシーを使用しているときの、ユーザー定義の認証質問のサポートが追加されました (ID4808)。
「すべて」、「ランダム」、および「いずれか」では、回答する質問の完全なリストが有効になります。
RoundRobin: 利用可能な質問のリストから 1 つの質問を選択し、ユーザーがその 1 つの質問に対する回答を作成できるようにします。
- License Administrator と呼ばれる新しい機能が追加されました。この新しい機能の使用法については、『Identity Manager 管理ガイド』を参照してください (ID-7481)。

サーバー

延期タスクスキャナで、スキャナが個別のオブジェクトを処理している間に発生するエラーが捕捉され、レポートされるようになりました。オブジェクトの一覧表示の失敗など、直接的に発生する一部の種類のエラーによってスキャン全体が停止する可能性はまだあります。しかし、特定のオブジェクトに固有のエラーによってスキャン全体が停止することはなくなりました (ID-10967)。

ワークフロー

- 同じ名前の同じ延期タスク定義の複数のバージョンをユーザーに追加できるようになりました (ID-6464)。
- ワークフローサービスの `runResourceAction` メソッドの説明が、『Identity Manager Workflows, Forms, and Views』の「Workflow Service Methods」の章に追加されました。このメソッドは、ワークフローからのリソースアクションの実行をサポートします。リソース ID、リソースアクション、および引数の Map を指定してこのメソッドを呼び出すと、リソースのリソースアダプタに対してリソースアクションが実行され、結果が返されます (ID-9068)。
- ワークフローサービスの Session メソッドクラスに、2 つの新しいワークフローサービスメソッド `getResourceObject` および `listResourceObjects` が追加されました。また、『Identity Manager Workflows, Forms, and Views』の「Workflow Service Methods」の章にこれらのメソッドの説明が追加されました (ID-9107)。

このリリースで解決された不具合

この節では、アイデンティティインストールパック 2005Q4M3 で解決された不具合について詳しく説明します。

管理者インタフェース

- ロールの同期の結果に数値の ID が表示されなくなりました。代わりに、ユーザーにとってわかりやすい表示名が表示されるようになりました (ID-6937)。
- Identity Manager Web アプリケーションが、サーブレット仕様のバージョン 2.3 をサポートするようになりました。この結果、Websphere Application Server のバージョン 5 を使用している場合でも、Identity Manager Web アプリケーションで Websphere Application Server バージョン 4 のデータソースを使用できるようになりました (ID-7913)。
- すべてのバージョンについて、国旗を表すイメージが製品の配布から排除されました (ID-8937)。
- LoginApp を管理者インタフェースから無効にできるようになりました (ID-9021)。
- 「アクティブプロセス」ページで、時間の値が説明フィールドに 24 時間形式で 1 つだけ表示されるようになりました (ID-9472)。
- SimpleTable ユーザーインタフェースコンポーネントで、noWrap プロパティーがフォーム XPRESS での設定どおりに正しく解釈されるようになりました (ID-9763)。
- サンライズタブ上のチェックボックスを使用して、2 つの異なる方法でサンライズにアカウントを作成させるオプションが新しく用意されました。また、ユーザーを有効化し、延期されたリソースアカウントを作成するために、延期タスクが使用されるようになりました (ID-10174)。
- Active Sync 設定の「関連規則」および「確認規則」選択リストに、適切なサブタイプの規則だけが一覧表示されます (ID-10247)。
- Active Sync が利用可能になる前 (たとえば、Active Sync の起動直後) にその状態を表示するエラーが発生しなくなりました (ID-10475)。
- Identity Manager で ResetSession を取得するために、匿名ログインページを同時に使用できるようになりました (ID-10846)。
- リソースに対する Active Sync を、Identity Manager クラスタ内のどのサーバーからでも停止および開始できるようになりました (ID-10821)。
- Identity Manager ユーザーをロックできるようになりました (ID-10851)。
- 「ユーザーの検索」の結果ページに「編集」ボタンが追加されました。また、結果リストでユーザーを選択して編集したあとに、インタフェースが「ユーザーの検索」の結果ページに戻るようになりました (ID-10913)。
- ロールの同期タスクが正しく機能するようになりました (ID-11190)。

このリリースで解決された不具合

- プロパティー `gui.enableTaskTemplateEditor` が `Waveset.properties` ファイルから削除されました。このオプションはデフォルトでオンになりました (ID-11611)。
- 指定された選択基準に一致するタスクの数が結果の制限数を越えたときに、「タスクの検索」ページ (`task/findtasks.jsp`) がハングアップしなくなりました (ID-11803)。
- `ChangeLog` が削除操作をサポートするようになりましたが、権限ソースとして単一のリソースを使用していない場合、一部のデータ値が欠落します。ID 属性および `ChangeLog` ビューの一部の場合、`accountId` が存在します (ID-11917)。

監査

Identity Manager が改ざん防止監査ログをサポートするようになりました。改ざん防止監査ログを有効にする方法と、監査ログの侵害をレポートする方法については、『Identity Manager 管理ガイド』を参照してください (ID-8688)。

ビルド

Javadoc の完全なセットがビルド時にコンパイルされるようになりました (ID-11158)。

ビジネスプロセスエディタ

BPE で階層ライブラリの作成がサポートされなくなりました (ID-9971)。

「IE Bridge」が、BPE の優先される Web ブラウザのオプション (「Tools」>「Options」) から除外されました (ID-10617)。

フォーム

- 新しいサンプルフォームの「LDAP Create Group」および「LDAP Update Group」では、一意でないメンバー名が許可されます (ID-8831)。
- Identity Manager は検証式を実行する前に、検証式内部のフィールドを一時的に復号化するようになりました。検証式内部のフィールドを復号化する回避方法を使用している場合や、式でフィールドが `EncryptedData` であることを想定して `decryptToString` を呼び出していた場合、フォームで不定の例外が発生する可能性があります。この方法を使用している場合、アップグレード後は使用しないでください (ID-9024)。
- 名前付きポリシーの文字列の品質をチェックする新しいメソッドが `FormUtil` および `WorkflowServices` に追加されました。これは、パスワードポリシーの不一致をデバッグする際に役立ちます (ID-9689)。

- リソースオブジェクトタイプを管理するためのリソースフォームを、個々のリソースインスタンスに対して指定できるようになりました。これまでは、リソースフォームはリソースタイプレベルでしか指定できませんでした。(ID-9753)。
- StripNonAlphaNumeric 規則が正しい部分文字列を返すようになりました (ID-10275)。
- ユーザーの編集時に、除外可能なリソースのリストの内容が、Role や ResourceGroup の割り当てを介して間接的に割り当てられるリソースだけになりました。直接割り当てられるリソースはこのリストに含まれません (ID-11585)。
- フォームライブラリが更新され、「ユーザーの編集」ページでリソース名が正しく表示されるようになりました (ID-11699)。

Identity Auditor

- ユーザーインタフェースで、リソースの右クリックメニューの「接続の管理」項目が正しく機能するようになりました (ID-10379)。
- 監査およびレポートのための新しい読み取り専用属性を返す機能が追加されました (ID-11015)。
- ユーザーインタフェースにおいて、デフォルトのページバッファサイズが小さいサードパーティコンテナでコンプライアンスグラフが正しく表示されるようになりました (ID-11174)。
- ユーザーの追加または更新時に正しいラベルが表示されるようになりました (ID-11887)。

Identity Manager SPE

デフォルトでは、API 呼び出し `checkinObject` および `deleteObject` `IDMXContext` を使用すると監査は実行されません。監査を実行するには、これらのメソッドに渡されるオプションマップで `IDMXContext.OP_AUDIT` キーを `true` に設定することによって、監査を明示的に要求する必要があります。ApiUsage クラスの `createAndLinkUser` メソッドに、監査の要求方法が示されています (ID-11261)。

インストールと更新

- Cryptix の `.jar` ファイルがソフトウェアインストールから除外され、サポートされなくなりました (ID-8238)。
`waveset.properties` ファイルをカスタマイズした場合は、`security.jce.workaround` property が `false` に設定されているか、削除されていることを確認します。`true` に設定すると、例外が発生します。
- インストーラが `update.xml` を自動的にインポートするようになりました。(ID-8269)。

このリリースで解決された不具合

- ライセンスの問題により、次の JAR が削除されました。これらの JAR は次に示すリソースアダプタに対して必要です。各 JAR とベンダーからの入手方法に関する情報を次に示します (ID-9338)。

```
Adapter:  OS400ResourceAdapter
URL:      http://jt400.sourceforge.net
Project:  JTOpen
JAR:      jt400.jar
Version:  2.03
```

```
Adapter:  ONTDirectorySmartAdapter
URL:      http://my.opennetwork.com
Project:  Directory Smart
JARs:     dsclass.jar, DSUtils.jar
Version:  N/A
```

- セットアップの実行時、LocateIndexPanel で「JDBC 2.0 Data Source」が独立した選択肢として表示されなくなりました。その代わりにこのパネルでは、サポート対象の各 DBMS に対して「JDBC Driver」および「Data Source」が表示されるようになりました (ID-9903)。
- 現在の Identity システムソフトウェアをサポートするために必要な Java プラットフォームのバージョンは JDK 1.4.2 です (ID-10347)。
- アイデンティティインストールパックのセットアップで、別途ライセンスの指定をしないかぎり、デフォルトで無償使用ライセンスが使用されるようになりました (ID-11720)。

javax/mail/MessagingException

アプリケーションサーバーによっては、次の .jar ファイルを WEB-INF/lib ディレクトリにダウンロードしてインストールする必要があります。

- mail.jar - <http://java.sun.com/products/javamail>
- activation.jar - <http://java.sun.com/products/beans/glasgow/iaf.html>

インストールされていない場合、javax/mail/MessagingException を受け取り、Identity Manager ユーザーを正常に作成できない可能性があります (ID-10207)。

lh コマンド

lh set license コマンドが改訂されました (ID-10715)。

使用方法

```
License [options] { status | set {parameters} }
```


オプション

- `-U username` (Configurator のユーザー名を変更する場合)
- `-P password` (Configurator のパスワードを変更する場合)

パラメータ

`set` オプションのパラメータは、次のどちらかの形式でなくてはなりません。

```
{-f <file>}  
{<stdin>}
```

ログ

- Identity Manager の多くのシステムメッセージとシステムエラーが、標準エラー出力または標準出力に書き込まれる代わりにリポジトリに記録されるようになりました (ID-2914)。
- カスタム Java コードがインストールされた配備について：
`com.waveset.util.Trace` および `com.waveset.adapter.Trace` によって実装されたトレース機能が、`com.sun.idm.logging.Trace` 内の新しい機能に置き換えられたことに注意してください。古い機能も引き続きサポートされますが、非推奨になったので、新しい機能への移行を開始することをお勧めします (ID-10494)。

ローカライゼーション

- 国際化がデフォルトで有効になりました (ID-7216)。
- これまでローカライズされていなかった多数のメッセージがローカライズされました (ID-7709)。
- 「すべてのコンプライアンス違反」レポートのデフォルトインスタンスの列名がローカライズされました (ID-9728)。
- 「期限切れパスワード」レポートの各種テキストフィールドが適切な言語で表示されるようになりました (ID-9920)。
- すべての EmailTemplate オブジェクトが国際化されました。オブジェクト名は以前と同じままですが、`displayName` 属性は、オブジェクトの言語固有の名前を含むメッセージタグに設定されます (ID-10627)。
- Identity Manager および Identity Auditor によって生成される CSV レポートのエンコーディングが UTF-8 になりました。これらのスプレッドシートを正しく表示するために、レポートのデフォルト拡張子を認識されていない拡張子に変更して、スプレッドシートアプリケーションでファイルのエンコーディングを選択できるようにする作業が必要な場合があります (ID-10667)。

このリリースで解決された不具合

PasswordSync

- トレースログに記録される値が実際のレジストリ名と一致するようになりました (ID-9575)。
- パスワード更新をキューに送信しようとしてエラーが返された場合に、エンドユーザーまたは管理者、あるいはその両方に電子メールが送信されるようになりました (ID-9947)。
- PasswordSync の設計が新しくなりました。これは JMS および電子メールの設定に影響します。「ユーザー」タブには、コマンド行に `-direct` を追加した場合にのみアクセスできるようになりました (ID-11118)。

調整

- 調整ポリシーで複数の調整サーバーを指定できるようになりました。これにより、1 つのサーバーが使用できなくなった場合でもサービスを継続できるようになりました (ID-9627)。
- 調整要求が管理者インタフェースを無期限にハングアップさせる可能性がなくなりました (ID-10326)。
- 調整ワークフローからのエラーを調整結果の一部として参照できるようになりました。また、調整前ワークフローにエラーがあった場合に調整を継続できなくなりました (ID-10334)。
- リソースアプレットの表示中に、フラグ抑制調整ポリシー検索が導入されました。同じタイプのリソースが多数 (400 個以上) 存在する配備では、これによってパフォーマンスが向上する場合があります (ID-11697)。

レポート

- デフォルトの「ユーザー変更履歴」レポートが追加されました。このレポートは、指定された期間中にユーザーに対して行われたアクションを示します (ID-9720)。
- `reporttasks.xml` がインポートされたあと、ユーザー概要レポートの変更保留オプションによってユーザーの正しいリストが返されます (ID-11377)。

リポジトリ

- 揮発性のタスク関連オブジェクト (たとえば、`Type.WORK_ITEM`、`Type.TASK_INSTANCE`、`Type.TASK_RESULT`、および `Type.TASK_RESULT_PAGE` のインスタンス) が、1 対の独立したデータベーステーブル (`task`、`taskattr`) に格納されるようになり、デフォルトテーブル (`object`、`attribute`) には格納されません。 (ID-8813)。
- `ACCOUNT` テーブルのインデックスの設計が見直され、リポジトリのパフォーマンスが改善されるとともに、DBMS のインデックス保守のオーバーヘッドが軽減されました (ID-9742)。

- DB2 を除くすべての DBMS について、データベースアップグレードスクリプトが account テーブルの **accountName** 列を null 以外に変更するようになりました (ID-9749)。
- setRepo コマンドで、コマンド行引数として指定された JNDI プロパティが正しく保持されるようになりました (ID-10136)。
- オブジェクトの XML 文字列のサイズが設定された制限値を超えると、違反したオブジェクトがリポジトリの例外メッセージで識別されるようになりました (ID-10670)。次に例を示します。

```
Item 'User:joebob' length (5937) exceeds configured maximum (5000).
```
- このリリースでは次のメソッドが非推奨になりました。

```
com.waveset.object.Attribute#getDbColumnName  
com.waveset.object.Attribute#getDbColumnLength
```


カスタムコードでこれらのメソッドを使わないようにしてください。
- サブ組織の数が 1000 を超える組織に含まれるユーザーを検索しても、Oracle でエラーが発生しなくなりました (ID-10559)。
- 長さが 4000 バイトを超える可能性があるバインド値が LOB または LONG のバインドに続くときに、Oracle 9 または Oracle 10 で Identity Manager リポジトリのエラーが発生しなくなりました (ID-10693)。
- アイデンティティーインストールパック が Attribute.CONTAINED_BY_OBJECT_GROUP (containedByObjectGroup) を公開するようになりました。これにより呼び出し元が、オブジェクトグループの包含関係に基づいて (たとえば、IDM オブジェクトグループが定義する組織階層内部の直接および間接的な包含関係に基づいて) より効率的に問い合わせを行えるようになりました (ID-11392)。
- 組織 (たとえば、Type.OBJECT_GROUP のインスタンス) が、1 対の独立したデータベーステーブル (org、orgattr) に格納されるようになり、デフォルトテーブル (object、attribute) には格納されません。これにより、Identity Manager 組織のパフォーマンス、スケーラビリティ、および保守性が向上します (ID-11393)。
- 汎用の RelationalDataStore を使用して Oracle、MySQL、DB2、または SQL Server データベースにアクセスしようとした場合、Identity Manager リポジトリの初期化によって、RelationalDataStore の適切なサブクラスが自動的に構築されます。
このオーバーヘッドを避けるために、Setup または setRepo を使用して、リポジトリの場所のタイプとしてその DBMS を指定することをお勧めします。 (ID-11429)。
- サブ組織に関連付けられた 1000 名を超えるユーザーを UserMemberRule で取得しようとしても、Oracle 上でエラーが発生しなくなりました (ID-11432)。
- オブジェクトの概要文字列が 1000 文字を超えると、Oracle 9 または Oracle 10 で Identity Manager リポジトリのエラーが発生しなくなりました (ID-11565)。

リソース

Active Sync

- すべての Active Sync リソースについて、Active Sync ログディレクトリが存在しない場合、Identity Manager がこのディレクトリを作成しようとします。作成できない場合、トレースファイルにエラーメッセージが書き込まれます (ID-10291)。
- リソースに対する Active Sync を、Identity Manager クラスタ内のどのサーバーからでも停止および開始できるようになりました (ID-10821)。

ERP

- 接続先の SAP システムに PASSWORD_FORMAL_CHECK 関数モジュールが含まれていないときに、SAP アダプタが NullPointerException をスローしなくなりました (ID-9946)。
- SAP HR Active Sync アダプタが、複数の値を含む属性に対して List オブジェクトを返すことができるようになりました。加えて、IDoc のより深い階層にある任意の属性を取得できるように、属性はパス表現で指定されるようになりました (ID-10387)。
- SAP リソースアダプタは SAP Note 750390 Installed? リソース属性をサポートしなくなりました (ID-10039)。
- Identity Manager 内で作成、更新、削除が繰り返されないように、Peoplesoft プロジェクト内のビュー「SQL for AUDIT_EFFDT_LH Record」が変更されました (ID-10481)。

ゲートウェイ

- テキストリストのロード方法に関するロジックの問題点が修正されました。以前は、Domino 拡張機能が空のテキストリスト属性を処理するときに、ゲートウェイのクラッシュが発生していました (ID-9581)。
- タスクのスケジュール時のホスト名比較で大文字と小文字が区別されるようになりました。これは、waveset.hostname に対して使われるホスト名と、sources.<Resource>.hosts および sources.hosts 内で使われるホスト名に関係します (ID-9606)。
- SecurID アダプタで、Forms 環境内部のリソースから adminLevel、adminTaskList、adminTaskListTasks、adminGroup、adminSite の各値を取得できるようになりました (ID-9750)。
- Domino リソースからのユーザーを調整している場合、「ブロック数」のユーザーが処理されたあとに調整プロセスが終了しなくなりました。「ブロック数」はエージェントアダプタのパラメータで、ブロックが操作中に保持できるユーザーの最大数を制限するために使われます (ID-10929)。

- リソースから返されるアカウント名 (ID) がリソースの ID テンプレートで指定されたものと異なる場合に、Domino の事後のアクションが実行されるようになりました。これは通常、大文字と小文字の違いが原因です (ID-11156)。

その他のリソース

- LDAP Listener Active Sync アダプタで、「同期させる属性」リソース属性を空のまま (変更はフィルタリングされない) にした場合でも属性が正しく機能するようになり、LDAP 削除イベントは正しく処理されます (ID-5658)。
- HostAccess クラスとそれが依存するクラス群への依存性を排除するために、次の非推奨メソッドが ResourceAdapterBase クラスから削除されました。

```
protected void runResourceAttributeJavascriptAction(String resAttrName,  
    HostAccess hostAccess, HostAccessLogin hostAccessLogin,  
    String user, EncryptedData password) throws Exception
```

カスタマイズされたアダプタがそのメソッドを参照している場合は、このメソッドの実装を持つ HostAccessResourceAdapter を拡張するようにアダプタを修正することをお勧めします (ID-6033)。

- 管理者インタフェースを使用して、個別のリソースインスタンスに対して機能を無効にできるようになりました (ID-6192)。
- Novell SuSE Linux Enterprise Server 9 SP1 がサポート対象プラットフォームとなりました (ID-6715)。
- HPUX Resource Adapter が、ユーザーの作成時にユーザー ID を割り当てることができるようになりました (ID-7348)。
- SunISResourceAdapter の名前が SunAccessManagerResourceAdapter に変更されました。SunISResourceAdapter は非推奨になりました (ID-7556)。

関連するすべてのサンプルフォームも追加されています。

- SunAMUserForm.xml
- SunAMUpdateStaticGroupForm.xml
- SunAMUpdateRoleForm.xml
- SunAMUpdateOrganizationForm.xml
- SunAMUpdateFilteredGroupForm.xml
- SunAMUpdateDynamicGroupForm.xml
- SunAMCreateStaticGroupForm.xml
- SunAMCreateRoleForm.xml
- SunAMCreateOrganizationForm.xml
- SunAMCreateFilteredGroupForm.xml
- SunAMCreateDynamicGroupForm.xml

- カスタムアダプタを再コンパイルするときに、親クラスで実装されている `com.waveset.object.Constants` に依存することが原因で、そのアダプタのコンパイルが失敗する場合があります。問題を解決するには、コンパイルエラーごとにフィールドを静的に参照します (ID-8215)。

次に例を示します。

```
/tmp/wd151610/waveset/idm/backward/5_0SP1/com/waveset/adapters/DominoHttpResourceAdapter.java:270:
cannot resolve symbol
symbol   : variable DOMINO_PASSWORD
location: class com.waveset.adapters.DominoHttpResourceAdapter
+ "      <AuthnProperty name='"+DOMINO_PASSWORD+"'
displayName='"+Messages.UI_PWD_LABEL+"' formFieldType='password' />%n"
      ^
```

「DOMINO_PASSWORD」が解決できない場合があります。先頭に「Constants.」を付加し、「com.waveset.object.Constants」のインポートを追加すれば問題は解決します。

- LDAP リソースアダプタが拡張され、名前変更の前後でユーザーのグループを保持するようになりました (ID-8348)。
- LDAP リソースアダプタは、Sun Java System Directory Server における Active Sync を介したパスワード変更を検出できるようになりました。この機能を利用するには、ターゲットディレクトリサーバーにカスタムプラグインをインストールする必要があります (ID-8870)。
- データベーステーブルアダプタで、列名にスペースまたはその他の標準外文字を使用できるようになりました (ID-9016)。
- Active Sync ポーリングの起動時間が、開始時刻、開始日、およびポーリング間隔を認識するようになりました。開始日と開始時刻が Active Sync パラメータとして指定されている場合、最初の poll() 時刻はこれらのフィールドを適切に認識します。開始日も開始時刻も指定されていない、またはこれらのフィールドのどちらか一方しか指定されていない場合、poll はただちに起動します (ID-9083)。
- メインフレームリソース、スクリプトリソース (UNIX など)、および LDAP リソースに対してエラー時続行機能がサポートされるようになりました。この機能は調整および Active Sync に影響します (リソースでサポートされている場合)。この機能を有効にすると、個別ユーザーの処理エラーはログに記録されますが、処理は継続されます (ID-9602)。
- LDAP リソースアダプタが拡張され、LDAP アカウントを有効化 / 無効化するときを使うメカニズムとパラメータを指定できるようになりました (ID-9774)。
- サンプルのスケルトンアダプタコードが簡素化され、Active Sync 実装に対して IAPIFactory を利用するように更新されました (ID-9985)。
- FlatFile アダプタ XMLResourceAdapter と、それから派生するタイプが、そのリソース上で新しい (場合によっては部分的な) アカウントを作成しなくなりました (ID-10127)。

- UNIX システム上で特定のコマンドを実行するために、管理者は `sudo` によって権限を付与される必要があります。テスト接続を使用して、次のことをテストできます。
 - これらのコマンドが管理者ユーザーのパスに存在するかどうか
 - 管理ユーザーが `/tmp` への書き込みを行えるかどうか
 - 管理ユーザーが特定のコマンドを実行する権限を持っているかどうか

注 テスト接続では、通常のプロビジョンの実行とは異なるコマンドオプションを使用できます (ID-10226)。

- DatabaseTable アダプタが ORDER BY 句をサポートするようになりました (ID-10546)。
- ホストリソースアダプタが、同じホストに接続している複数のホストリソースでの親和性管理者に対して最大接続数を強制しなくなりました。代わりに、各ホストリソース内部の親和性管理者に対して最大接続数が強制されます (ID-11001)。
 同じシステムを管理している複数のホストリソースがあり、現在それらのリソースが同じ管理者アカウントを使うように設定されている場合、同じ管理者がリソースに対して同時にアクションを実行しようとしていないことを保証するために、リソースの更新が必要な場合があります。
- フェイルオーバーを使用する場合に、複数の Active Sync アダプタのスタートアップの種類を「自動」に設定できるようになりました (ID-11014)。
- Solaris システム上で、スクリプト相互排他ロック獲得ファイルが別の Identity Manager プロビジョニングプロセスによって削除された場合に、Solaris アダプタがエラーメッセージを出力しなくなりました (ID-11044)。
- すべての UNIX アダプタで、属性値が null (または空の文字列) の場合に `WSUSER_<attribute_name>` 変数が null に設定されるようになりました。
`<attribute_name>` が値を持たないか、空文字列の値を持っていた場合には、これまでは `WSUSER_<attribute_name>` の値が使われていました (ID-11113)。
- TopSecret が CICS セグメントから OPTIME および OPID 属性を管理できるようになりました。また、追加のカスタム属性をサポートするように TopSecret を設定できるようになりました (ID-11249)。
- (ストックの) FlatFile リソースに対して調整が試みられた場合、例外の代わりに次のエラーメッセージが表示されるようになりました (ID-11340)。
 アダプタは、リソース <リソース名> に関するアカウントを調整するために、アカウントの反復処理をサポートしなければなりません。
- IdPak 2005Q4M3 で、STARTUP_TYPE に関係するいくつかの定数が、`com.waveset.object.Attribute` から `com.waveset.object.Resource` に移動されています。

```
STARTUP_TYPE_AUTO
STARTUP_TYPE_AUTO_FAILOVER
STARTUP_TYPE_MANUAL
STARTUP_TYPE_DISABLED
```

このリリースで解決された不具合

STARTUP_TYPES
STARTUP_TYPES_DISPLAY_NAMES

com.waveset.object.Attribute の非推奨になった定数は、将来のリリースで削除される予定です。非推奨になった定数を参照しているカスタムコードがある場合、com.waveset.object.Resource の新しい定数を参照するように変更することをお勧めします (ID-11675)。

- グループ割り当てを変更せずにユーザーが更新されたときに、ClearTrust グループ割り当て (userGroup 属性) が削除されなくなりました (ID-11952)。
- 未使用の接続が不必要に保持されるのを防ぐために、反復処理とポーリングの間、データベース接続ができるだけ早く閉じられるようになりました (ID-11986)。

レポート

- CSV または PDF にダウンロードされたレポートに HTML タグ
 が表示されなくなりました (ID-10237)。
- レポート生成時に使われるフォントは、「設定」>「レポート」ページの設定を編集することによってグローバルに制御されます。各レポートの設定を編集することにより、そのレポートに関してグローバルの設定を上書きすることもできます (ID-10641)。

セキュリティ

- 質問ログイン成功後のパスワード変更チャレンジを省略するための新しいプロパティ questionLogin.bypassChangePassword が追加されました。この新しい機能の用法については、『Identity Manager 管理ガイド』を参照してください (ID-10465)。
- HTTP の actionControl パラメータに関連するクロスサイトスクリプティングの脆弱性が解決されました (ID-11417)。
- 次の FormUtil メソッドの Javadoc が修正または加筆されました (ID-11592)。
 - getAdministrators
 - getApprovers
 - getApproverNames
 - getSimilarApprovers
 - getSimilarApproverNames
 - getUsers
- 組織の userMemberRule に渡すことのできる新しい引数が追加されました (ID-11621)。

- Identity Manager が新規インストールに対して、キー暗号化キーとしてデフォルトキーの代わりに PKCS#5 (PBE) キーを使用するように、またデフォルトキーを使用する代わりに一意なサーバー暗号化キーを生成するようになりました (ID-11719)。

これにより、すべての新規インストール間で、キー暗号化キーまたはサーバー暗号化キーの重複が起きないようにします。既存のインストールは、キー暗号化キーとサーバー暗号化キーに関する以前の設定に基づいて動作し続けます。

サーバー

- 延期タスクスキャナのパフォーマンスが向上しました。完了までの時間が短縮され、リソースの消費も少なくなりました (ID7763)。
- Identity Manager で tmp ディレクトリへのアクセスが必要になりました (ID-7804)。アプリケーションサーバーでセキュリティーポリシーを使用する場合、この変更に伴って次の権限を追加する必要があります。

```
permission java.io.FilePermission "${java.io.tmpdir}" "${/*}*"
"read,write"
```

- AdminRole に含める、またはそこから除外するオブジェクトを選択するための新しい方法が用意されています。AdminRole を作成または編集するためのユーザーインターフェースで、1 つ以上の制御対象組織を選択したあとに、AdminRole に含める (または除外する) オブジェクトのリストを選択する方法が変更されました (ID-9002)。
- 「Include Related Items」機能が Work Item ビューに追加されました。これにより、プロセス内のほかのアクティブ作業項目についての情報を承認フォームに表示できるようになりました (ID-9157)。
- セキュリティー上の理由から、savedObjects は現在 /WEB-INF ディレクトリにあります (ID-10506)。
- 致命的な例外の捕捉後に、延期タスクスキャナが NullPointerException でクラッシュしなくなりました (ID-11155)。
- LDAP グループの 2 回目の変更を行ってもエラーが発生しなくなりました (ID-11158)。
- 承認のための「転送先」ドロップボックスに関連するパフォーマンスの問題が解決されました。この問題は一般に、管理者ロールを介して機能を割り当てられる管理者の数が 1000 名を超えるような場合に発生していました (ID-11507)。
- 作業項目の処理が改善され、関連付けられた TaskInstance が不必要に取得されなくなりました (ID-11668)。
- コンソールの削除コマンドで、破損したオブジェクト (無効な XML を含むオブジェクトなど) が自動的に削除されるようになりました。これまでは、状況によっては、削除コマンドが成功したように見えても実際には破損したオブジェクトが削除されていない、ということがありました (ID-11861)。

トレース

- カスタム Java コードがインストールされた配備について : `com.waveset.util.Trace` および `com.waveset.adapter.Trace` によって実装されたトレース機能が、`com.sun.idm.logging.Trace` 内の新しい機能に置き換えられたことに注意してください。
古い機能は Identity Manager でも引き続きサポートされますが、非推奨になったので、新しい機能への移行を開始することをお勧めします (ID-10494)。

ワークフロー

- 監査ワークフローで、一連の `WorkflowServices` 呼び出しを挿入する必要がなくなりました。代わりに、`<WFProcess>` 要素または `<Activity>` 要素で `audit=true` 属性を設定します (ID-10178)。
- `TaskDefinition` が 1 つ以上のアクティブタスク (`TaskInstance` オブジェクト) によって使用中の場合、`TaskDefinition` 内のワークフローステップ (埋め込みの `WFProcess` オブジェクト) を変更できません (ID-10460、10462)。
- `bulkReProvision` ワークフローサービスが、複数のユーザーを正しく再プロビジョニングするようになりました。 `reProvision` 操作の間、ロール属性がユーザーに正しく適用されるようになりました (ID-10541)。

マニュアル

- 『Identity Manager Workflows, Forms, and Views』の「HTML Display Components」の章で、JavaScript と任意の HTML の両方に対する HTML コンポーネントのサポートについての説明が追加されています (ID-4922)。
- 『Identity Manager Workflows, Forms, and Views』の「User View in the Views」の章の説明に、変数ネームスペースについての情報が追加されました (ID-10389)。
- 『Identity Manager 管理ガイド』の「PasswordSync」の章で、PasswordSync を各ドメインコントローラにインストールする必要があるという注記が明示されました (ID-10514)。
- 『Install Pack Installation』で、WebSphere クラスタ内のデータソースの設定方法についての説明が追加されました (ID-11210)。
- 『Identity Manager 管理ガイド』の「データの同期と読み込み」の章で、Active Sync ウィザードの「一般設定」パネルでのイベント作成時に Active Sync リソースを割り当てる方法についての説明が追加されました (ID-11217)。
- 『Identity Manager Deployment Tools』の「Variable Namespaces」の章で、関連規則および確認規則の有効なコンテキストの一覧が修正されました (ID-11297)。
- 『Identity Manager Resources Reference』で、サポート対象のすべてのアダプタおよびリソースバージョンの一覧表が追加されています (ID-11332)。

- 『Identity Manager Tuning, Troubleshooting, and Error Messages』の「Troubleshooting and Tracing」の章が更新され、`workflow.trace` パラメータの修正手順が変更されています。
このパラメータは `Waveset.properties` から移動しました。
`SystemConfiguration` オブジェクト内の `workflow.trace` パラメータを編集するように説明されています (ID-11910)。
- 『Install Pack Installation』の第 9 章で、Sun Java System Application Server ユーザーの `server.policy` ファイルに関する正しい情報が追加されています。現在のリリースにアップグレードしている場合、この情報を `server.policy` ファイルに追加してください (ID-11983)。

解決されたその他の不具合

8354、8384、9084、10512、10644、10827、10992、11106、11491

このリリースで解決された不具合

3 既知の問題点

この節では、次の製品に関する既知の問題点と回避策について説明します。

- Identity Manager
- Identity Manager Service Provider Edition (SPE)
- Identity Auditor

Identity Manager

一般

- cookie が無効な場合、特定のページを表示しようとするログインプロンプトが表示されます (ID-158)。
- 「ワトソン博士」がポップアップ通知を表示しないように、Sun Identity Manager Gateway が稼働するシステムを設定する必要があります。このポップアップ通知が有効に設定されている場合、ゲートウェイでエラーが発生すると、ポップアップウィンドウを閉じるまでプロセスはハングします。
- 無効化フォーム要素では、`display.session` 変数と `display.subject` 変数を使用できません。フォームの再計算のたびに式が実行されるため、長く実行される可能性のあるアクティビティを無効化要素内に作成することはお勧めできません。その代わりに、頻繁に実行されない別のフォーム要素内で計算を行うことをお勧めします。
- Identity Manager Web インタフェースで作業しているときに最高のパフォーマンスを得るには、Identity Manager にバンドルされている OpenSPML ツールキットを使用します。openspml.org Web サイトから入手した openspml.jar ファイルを使用すると、メモリーリークの原因となる場合があります (ID-11889)。
- Identity Manager のインストールディレクトリへのパスに空白文字が含まれる場合は、次のように、二重引用符 (") なしで WSHOME 環境変数を指定する必要があります。

注 パスに空白文字が含まれない場合でも、パスを指定するときは最後の円記号 (¥) を指定しません。

```
set WSHOME=c:¥Program Files¥Apache Group¥Tomcat 4.1¥lighthouse
```

または

```
set WSHOME=c:¥Progra~1¥Apache~1¥Tomcat~1¥lighthouse
```

次のような指定は機能しません。

```
set WSHOME="c:¥Program Files¥Apache Group¥Tomcat 4.1¥lighthouse"
```

- リソーススキーママップに設定する必要があるフィールドは、ユーザーアカウントの作成時にだけチェックされます (ID-220)。ユーザーの更新時にフィールドが必要になる場合は、フィールドが必須フィールドになるようにユーザーフォームを設定する必要があります。
- 組織名、管理者名、アカウント名、ユーザー属性名 (スキーママップの左辺)、タスク名の文字の有効性はチェックされません (ID-1145、1206、1679、1734、1767、2413、3331)。ドル記号 (\$)、コンマ (,)、ピリオド (.)、アポストロフィ (')、アンパサンド (&)、左角括弧 ([)、右角括弧 (])、コロン (:) をこれらのオブジェクトの名前に使用することはできません。
- セッションのタイムアウト後にアクションを実行しようとする、操作に関連しないエラーメッセージがアカウントページに表示されます (ID-1223)。
- ブラウザが大きなフォントを使用している場合、カレンダーオブジェクトの一部が表示されなくなります (ID-2120)。
- 「検索結果」ページと「タスクのリスト」ページの「すべてを選択」チェックボックスは、リスト内のいずれかの項目が選択されていない場合、未選択状態になりません (ID-5090)。リストのすべての要素に対応するすべてのチェックボックスが選択されていない場合、結果表示アクションの実行時に「すべてを選択」チェックボックスは無視されます。
- カスタムメッセージカタログに変更を加えた場合、変更を表示に反映させるには、サーバーを再起動する必要があります (ID-6792)。
- 複数ユーザーの有効化または無効化時は、サイドバータブ (「アカウントリスト」、「ユーザーの検索」など) は確認ページに表示されません (ID-6866)。ページの内容を確認して結果を表示すると、タブは再表示されます。
- 障害が発生したサーバーを検出する現在のメカニズムは、Identity Manager クラスタ内のすべてのシステムが、時間的に同期されているものと見なします (ID-7064)。障害検出の 5 分のデフォルト間隔では、1 つのサーバーの同期が 5 分以上別のサーバーとずれている場合、時間的に先行するサーバーは遅れているサーバーが非活性であることを宣言し、予期せぬ結果を生じます。これを解決するには、同期の時間的なずれをより少なく維持するか、フェイルオーバー間隔を長めに設定します。
- Windows で、マシンのデフォルトのエンコーディングが 1 バイト文字しかサポートしない場合、名前に 2 バイト文字を含むユーザーとしてログインするには、USER_JPI_PROFILE 環境変数を 1 バイト文字だけを含む既存のディレクトリに設定する必要があります (ID-8540)。
- ブラウザでアカウントアプレットが読み込みに失敗した場合は、すべてのユーザーがアプレット JAR ファイルを含むディレクトリおよび `IDM_install_dir/applet/tt22.jar` アプレット JAR ファイルの読み取り権限と実行権限を持っていることを確認してください (ID-8541)。

- リソースオブジェクトが、照会可能な属性 `typeString` (`Attribute.TYPE_STRING`) を公開するようになりました。この属性には、以前は `type` として公開されていたリソースタイプ値が含まれています。

`type` (`Attribute.TYPE`) に基づいてリソースを問い合わせるカスタムコードがある場合は、できるだけ早く、`typeString` (`Attribute.TYPE_STRING`) の問い合わせに変更してください。`Attribute.TYPE_STRING` はリソースオブジェクトに対してはインライン化されるため、`Attribute.TYPE_STRING` への変換によりパフォーマンスが向上します。

アイデンティティインストールパック の次のフルリリースでは、`Attribute.TYPE` としてのリソースタイプ値の公開は行わない予定です (ID-11124、11125)。

- ツリーテーブルビューで、オブジェクトの削除後にリソースオブジェクトが正しく更新されません。手動でページを更新するとオブジェクトが正しく表示されます (ID-12241)。

インストールとアップデート

- Identity Manager を `idm.war` ファイルからインストールした場合、UNIX シェルスクリプトに実行ビットが設定されません (ID-2371)。これを解決するには、`idm/bin` ディレクトリで UNIX の `chmod` コマンドを実行します。
- 更新の、カスタマイゼーション保存段階でエラーが発生すると、「インストール」ボタンはアクティブなように表示されますが、クリックしても機能しなくなります (ID-3797)。
- DN に空白文字が含まれる場合、Identity Manager は LDAP リポジトリに接続できません (ID-6066)。
- Identity Manager が Tomcat 5.x 環境にインストールされている場合、レポートを実行すると Java エラーが発生します (ID-6652)。これを回避するには、次の処理を実行します。

```
cd $WSHOME¥WEB-INF¥classes
jar xvf ../lib¥j2ee.jar javax/activation/DataSource.class
```

- AD Active Sync リソースは非推奨になり、AD リソースによって置き換えられました。AD Active Sync を新しいリリースに移行するには、次の手順を実行します (ID-11363)。
 - コマンド行またはデバッグページから、既存の AD Active Sync リソースオブジェクトを xml ファイルにエクスポートします。
 - 既存のリソースを削除します。これは、Identity Manager ユーザーまたはリソースアカウントユーザーには影響しません。
 - Active Sync である新しい AD リソースを作成します。
 - この新しいリソースオブジェクトを XML ファイルにエクスポートします。
 - このファイルを編集し、`id` 属性および `name` 属性の値を、手順 1 で保存した古いリソースオブジェクトの値と一致するように変更します。これらの属性は `<Resource id='idnumber' name='AD' ...>` タグにあります。

- 変更をファイルに保存します。
- 「設定」の「交換ファイルのインポート」ページまたはコマンド行を使用して、変更したオブジェクトをふたたび Identity Manager にインポートします。
- Identity Manager 6.0 にアップグレードするときに、PBE サーバーキーの生成で問題が発生する場合があります。サーバーキー暗号化に **pkcs5** を使用するように 6.0 以前のシステムを設定していた場合、アップグレード後はライセンスキーが機能しなくなります。その結果、次のサーバー起動時にログインまたはコンソールの起動ができなくなります (ID-12026、12027)。

「セキュリティ保護された新規ランダム PBE パスワードの生成」を選択することによって、新しい PBE パスワードを生成することをお勧めします。このオプションは、アップグレードの前に PKCS#5 が選択されていた場合にのみ表示され、選択可能となります。

アップグレードされたシステムリポジトリ内のシステム設定を編集 / インポートすることもできます。pkcs5Encrypt または updatePkcs5Password 属性の値の追加、削除、または変更は、サーバーキーの暗号化に次のように影響します。

```
pkcs5Encrypt = 'false'、updatePkcs5Password = 'true' または 'false'
```

これは、デフォルトの暗号化キーを使ってすべてのサーバー暗号化キーを再暗号化します。

```
pkcs5Encrypt = 'true'、updatePkcs5Password = 'false'
```

これは、リポジトリ内の pbe パスワードから生成された pcks5 暗号化キーを使って、すべてのサーバー暗号化キーを再暗号化します。

```
pkcs5Encrypt = 'true'、updatePkcs5Password = 'true'
```

これは、リポジトリの一意でセキュアなランダム pbe パスワードを更新します (例: miscData)。

またこれは、リポジトリ内の更新された pbe パスワードから生成された pcks5 暗号化キーを使って、すべてのサーバー暗号化キーを再暗号化します。

アカウント管理

- NT のネイティブツールが管理できない 20 文字を超えるアカウント名を持つ NT アカウントが作成できてしまいます (ID-710)。
- 管理者は、管理対象ではない組織を含むリソースまたはロールを保存することができません。
- Identity Manager は、NT で制限されている文字についてユーザーアカウント名をチェックしません (ID-844)。NT で使用が制限されている文字は次のとおりです。
"/ ¥ [] : ; | = , + * ? < >
また、ピリオドと空白文字だけで構成されるユーザー名を作成することはできません。
- 「プロビジョニング結果」ページのカラムをソートすると、結果に空の追加行が作成されます (ID-1105)。

- 数百におよぶユーザーアカウントの承認には長時間かかります (ID-1149)。これを回避するには、より小さなグループ単位でユーザーアカウントを承認します。
- 承認特権を持たなくなった管理者が所有する承認レコードを承認することはできません (ID-1150)。これを解決するには、その管理者が承認特権を持つリソース、ロール、組織から管理者を削除し、管理者の削除、または管理者の削除特権の削除前に未処理であった承認レコードを承認します。
- 修正なしでユーザーを更新しても、詳細結果ページは表示されません (ID-2327)。
- ユーザーを新規作成したり、既存のユーザーにリソースを追加したりする場合、ユーザーの識別名が誤っていると、管理者がログアウトするまで誤った値がキャッシュされます (ID-2508)。識別名の修正後にユーザーを再作成しようとしても、管理者がログアウトするまでは成功しません。
- Netscape 4.7 では、Identity Manager のユーザーインタフェースログイン画面にアカウントロックアウトメッセージが表示されません (ID-2680)。ページの URL にはエラーメッセージが表示されます。
- リソーススキーママップでは、「name」という名前はビューの予約語であるため、Identity Manager のユーザー属性として使用することはできません (ID-2918)。
- Windows Active Directory では、ディレクトリを作成できる管理者としてゲートウェイを実行する必要があります (ID-2919)。Identity Manager は Windows 2000 システム上にホームディレクトリを作成できます。ホームディレクトリアカウントの作成は、リソース定義に指定されている管理者ではなく、ゲートウェイを実行しているユーザーによって行われます。これを解決するには、ゲートウェイを実行しているユーザーをローカルシステムから、リモート共有の作成と、その共有の特権の設定を実行できるアカウントに変更します。このアカウントは、バイパストラバースチェックの特権と、オペレーティングシステムとして動作する特権も必要とします。
- ユーザーアカウントの無効化時にエラーが発生すると、Windows NT リソースはエラーメッセージではなく、誤った警告メッセージをスローします (ID-3222)。
- ユーザー編集ページからユーザーのすべてのリソースを削除すると、`java.lang.NullPointerException` が出力されることがあります (ID-4811)。この問題を回避するには、ユーザー削除ページを使用してリンクを解除するか、ユーザーからこれらのリソースアカウントを削除します。
- Identity Manager ユーザーが作成され、ユーザーアカウントがすでに存在する Windows Active Directory リソースに割り当てられると、リソース情報に GUID 属性を持たない状態でユーザーが作成されます。GUID は、ディレクトリ内のユーザーの組織または名前に加えられた変更の検出に使用されます。この問題は、リソースから調整を実行すると解決されます。
- ユーザーの作成時に、直接割り当てられたリソースを含むユーザーにロールを追加する場合は警告が出力されます (ID-5385)。
- ユーザーの作成時に「転送先」管理者を指定できません。このオプションは、ユーザーの編集時にだけ設定できます (ID-5695)。

- 削除ユーザーの「割り当て解除」操作は、1 リソースあたり複数のアカウントを処理できません (ID-6305)。

承認

- ユーザーを更新し、更新をバックグラウンドで実行するように選択した場合、承認アクティビティはタスク結果ページに表示されます (ID-3301)。この承認は無視できます。
- 管理者の承認レコードは、ユーザーの名前が変更されたあとは表示されません (ID-3386)。これを回避するには、ユーザー名を変更する前に、未処理のすべての承認を解決します。
- 承認されるユーザーが、承認者の制御対象ではない組織に属する場合、管理者は、過去に承認された、または過去に拒否された承認レコードを表示できません (ID-3494)。
- 設定者の承認保留リストに、リソース再試行タスクが表示されます (ID-3508)。

ログイン設定

- Domino リソースでは、パススルー認証モジュールは機能しません (ID-1646)。
- 「管理者ログインセットアップ」および「ユーザーログインセットアップ」ページで加えた変更を、ログインしているほかの管理者が表示することはできません (ID-3487)。変更を表示するには、ほかの管理者は管理者インタフェースからログアウトし、ログインし直す必要があります。
- 管理者がログインし、「自分のパスワードの変更」を選択してから別のタブを選択すると、ロックの期限が切れるまでアカウントがロックされます (ID-3705)。
ロックされた状態の管理者を別の管理者が編集しようとする、
「com.waveset.util.WavesetException: 現在、アカウント #ID#Configurator にアクセスできません。あとでやり直してください。」というメッセージが出力されます。「OK」ボタンをクリックすると、最後のアクションからのワークフロープロセスダイアグラムが表示されます。

組織

- 複数の組織を削除する場合、1 つの組織で削除に失敗すると、残るすべての組織も削除されません (ID-517)。
- 組織の名前を変更すると、その組織に属するユーザーを含むプロビジョニング要求が保留されている場合は、そのプロビジョニング要求は失敗します (ID-564)。これを回避するには、組織名を変更する前に、未処理の要求が存在しないことを確認します。
- 新規組織の作成時に、組織名の指名前に「ユーザーメンバー規則」オプションが選択されていると、ページの更新後に組織名のフィールドに組織の ID が表示されます (ID-6302)。新しい組織を保存する前に、正しい名前を設定できます。

() - 警告：フィールド [Approvers] 中のカッコ内の値が、許可された値のいずれとも一致しません。

- ユーザーが動的な組織規則によって組織に割り当てられ、その組織にも同じユーザーが存在する場合、「アカウントのリスト」アプレットにユーザーが 2 回表示されます (ID-6413)。

ポリシーと機能

- Identity Manager アカウントポリシー属性「リセット通知オプション」に指定されている「管理者」というオプション値は効力を持ちません (ID-944)。有効なオプション値は、「即時」と「ユーザー」だけです。
- 複数ロールの削除時にエラーが発生すると、ほかのロールに対する処理は継続されず、操作全体が停止します。
- ユーザーによる回答が必要な質問の最小数に、定義されている質問の数より大きな値を設定できてしまいます。このような状況では、ユーザーは「パスワードをお忘れですか」オプションを使用してログインすることができません。
- ポリシーの編集、名前の変更、新規オブジェクト作成の選択によって、デフォルトのアカウントポリシーのクローンを作成することはできません (ID-5147)。アカウントポリシーを新規作成する必要があります。

ユーザーの調整とインポート

- ユーザーがすでに Identity Manager に存在する場合、CSV ファイルからユーザーをインポートしても、リソース属性は更新されません (ID-2041)。
- CSV (コンマ区切りの値) ファイルで、一重引用符 (') を含むアカウント ID が読み込まれると、疑問符 (?) に変換されます (ID-2100)。
- 「スケジュールされている」オプションを使用している場合、「タスクの検索」ページでの検索ではスケジュールされているタスクは表示されません (ID-5001)。
- RedHat バージョン 8 リソースに対して実行した場合、調整は失敗します (ID-6087)。
- リソースの接続プールが有効化されている場合、Oracle ERP リソースの調整は完了しますが、エラーが出力されます (ID-6386)。これを回避するには、調整時の接続プールを無効にします。

レポート

- セキュリティー管理者はレポートを実行または作成できません (ID-1217)。これを解決するには、管理者にレポート管理者機能を与えます。
- リスト分析レポートが、レポート管理者以外の管理者に対しても表示されてしまいます (ID-1224)。
- プレーンテキストオプションで電子メール送信されるレポート結果の書式を設定することはできません (ID-2191)。これを解決するには、電子メールの HTML オプションを使用します。
- 大規模な結果では、監査ログエントリが記録されないことがあります (ID-5050)。
- 組織名にアポストロフィ (') が含まれる場合、選択してもティッカーは表示されません (ID-5653)。
- 管理者レポートの実行時に、管理者を持たない組織に対して、特定の組織に所属する管理者のみをレポートするオプションを選択した場合、`java.lang.NullPointerException` エラーが返されます (ID-5722)。
- 「User」オブジェクトタイプを参照して Identity Manager 5.0 SP4 で作成または変更された監査レポートや使用状況レポートは、編集時に、「Directory User」を参照します。これらのレポートは機能していなかった可能性があります。存在している場合は手動で編集し、「Directory User」が選択されていれば代わりに「User」を選択し直す必要があります (ID-9737)。

リソース

- リソーステストボタンを使用しても、一部のフィールドはテストされません (ID-51)。
- リソースポートの割り当てには、65535 より大きな値を設定できてしまいます (ID-59)。
- 誤った Active Directory グループ名を設定すると、不正確なエラーメッセージが表示されます (ID-363)。Active Directory グループ名に「cn=groupname,cn=builtin,dc=waveset,dc=com」ではなく「groupname」を指定した場合、「配列インデックスが境界を超えた」ことを示すエラーメッセージが表示されます。
- 名前が同じで、必須フラグが設定されていないアカウント属性を持つ別のリソースが存在する場合、必須アカウント属性が無視されることがあります (ID-1161)。
- 特権を持たないリソースに対して管理者が組織を追加しようとすると、エラーが表示されます。このため、リソースの編集はキャンセルされ、そのリソースにその他の変更を加えるには、再編集が必要となります (ID-1274)。
- PeopleSoft リソースで、リソースアカウントパスワードまたはユーザー名が誤っていた場合、エラーメッセージがクリアされません (ID-2235)。エラーメッセージの状態は次のとおりです。

```
bea.jolt.ApplicationException: TPESVCFAIL - application level
service failure
```

- 終了ステータス %DISPLAY_INFO_CODE% を使用する Windows Active Directory リソースアクションは、アクションを失敗させ、エラーが出力されます (ID-2827)。
- Windows NT リソースアクションは、終了コードの返値がゼロ以外の場合でも、アクションの終了ステータスが「失敗」となりません (ID-2828)。
- ユーザーの作成時に、Active Directory でユーザーの一次グループ ID を設定できません (ID-3221)。これを解決するには、一次グループ ID を設定せずにユーザーを作成し、ユーザーを編集して値を設定します。一次グループ ID は、グループの識別名ではなく、番号でも設定できます。
- リソース IP アドレスは、ホスト名が IP アドレスに解決されたあとに JVM にキャッシュされます。リソース IP アドレスが変更されたときは、Identity Manager が変更を検出できるように、アプリケーションサーバーを再起動する必要があります (ID-3635)。これは、Sun JDK (バージョン 1.3 以降) での設定で、sun.net.inetaddr.ttl プロパティによって制御されます。このプロパティは、通常は jre/lib/security/java.security 内で設定されます。
- Oracle リソース上の 1 ユーザーに複数のアカウントを作成することはできません (ID-3832)。
- エンドユーザーは、Domino リソースアカウントの自己検索機能を使用できません (ID-4775)。
- Active Directory 組織内のサブコンテナでユーザーの出し入れを行った場合、Active Sync アダプタは変更を検出しますが、編集ページにユーザーを表示すると (または、変更を加えてから確認ページを表示すると)、ユーザーのアカウント ID が元の DN (識別名) として表示され続けます (ID-4950)。ユーザーの修正には GUID が使用されるため、これが操作上の問題を生じることはありません。この問題は、リソースに対して調整を実行すると解決されます。
- 組織 (OU) からサブ組織にユーザーを移動すると、LDAP ChangeLog アダプタは変更を認識せずに、ユーザーが削除されたものと見なします。ユーザーオブジェクトは LH (これが現在の設定である場合) でロックされ、移動されたアカウントに代わる「新規」アカウントは作成されません。
- UNIX リソースアダプタが使用するプールされた接続は、コマンドまたはスクリプトの実行中にエラーが発生した場合、状態が未確定のまま残されることがあります (ID-5406)。
- NDS 組織は、リソースのベースコンテキストを「[ROOT]」に設定した場合にだけ、ツリーの最上位に作成できます (ID-5509)。
- 「リソースのリスト」ページでマウスの右クリックメニューからリソースオブジェクトを検索する場合、「is not」オプションを指定しても正しいオブジェクトリストが返されません (ID-6194)。

- NDS では、初期プロビジョンのフィールド (グレースログイン制限など) を編集し、ブールフィールドに値を指定しない場合、すべてのブールフィールドは false に設定されます (ID-6770)。これにより、特定のチェックボックスの値を true に設定しなければならない、制限タブ上のその他のフィールドを設定できなくなります。これを回避するには、ほかのフィールドの編集時に正しくプッシュされるように、true に設定する必要があるすべてのブールフィールドを必ず true に設定します。
- 「接続の管理」--> 「リソースパスワードの変更」機能を使用して UNIX マシンのパスワードを変更する場合、タスク名は次のようになります。
`_FM_PASSWORD_CHANGING_TASK null:null`
 本来は、意味のわかりやすい名前が表示されるべきです (ID-6947)。
- NIS を使用する UNIX リソースでは、接続の管理機能は使用できません (ID-6948)。ルートのパASSWORDが変更の対象となりますが、NIS はルートアカウントを管理していないため、エラーとなります。
- Identity Manager 組織で更新を選択してユーザーを更新する場合、ネイティブで作成され、Identity Manager に読み込まれた、Sun ONE ID Server アカウントを持つユーザーはエラーとなります (ID-7094)。これを回避するには、これらのユーザーを個別に更新します。
- アイデンティティインストールパック には、非推奨になった次のクラスがまだ含まれています。
 - `com.waveset.object.IAPI`
 - `com.waveset.object.IAPIProcess`
 - `com.waveset.object.IAPIUser`
 今後、カスタムアダプタでこれらのクラスを参照しないようにしてください。代わりに、パッケージ `com.waveset.adapter.iapi` 内の対応するクラスを参照するようにしてください (ID-8246)。
- DatabaseTableResourceAdapter スキーマのアカウント属性を、ブール値に設定しないでください。このアダプタは、ブール属性をブールオブジェクトとして正しく返さないため、ネイティブの変更監査者は変更が行われたものと誤って認識してしまいます (ID-8746)。
- サーバーのスタートアップ後にはじめて ActivCard に接続したときに、
`java.security.NoSuchAlgorithmException` エラーが標準出力に書き出されることがあります。このエラーによる悪影響はありません (ID-8905)。
- PeopleSoft コンポーネントインタフェースリソース上にアカウントを持つユーザーを削除しようとすると、エラーが発生します。現在、このリソースはアカウントの削除をサポートしていません (ID-9000)。
- Access Manager と Identity Manager 5.5 (およびそれ以降) を、Application Server 上に一緒に配備しないでください。Access Manager がデフォルトのセキュリティープロバイダを変更するため、Identity Manager がライセンスの署名の検証に失敗します。

ライセンス署名が検証できない場合、ブラウザの初期ページにエラーメッセージが表示されます。ほとんどの場合、このエラーはセキュリティープロバイダとの互換性の問題が原因で表示されます (ID-10518、10750、11011)。

エラーは次のように表示されます。

Failed to verify signature: 例外エラー

リソースオブジェクトの管理

- 「リソースのリスト」ページでは、Windows Active Directory オブジェクト (グループ、組織単位、またはコンテナ) の名前を変更できません (ID-3329)。
- リストに多数のリソースが含まれる場合、リソース管理アプレットを開くときに数秒かかります (ID-3456)。
- 複数の CN 値を持つユーザーが存在する場合、新しい LDAP グループを作成できません (ID-3848)。これを解決するには、LDAP グループ作成フォームで設定される CN の代わりに DN を使用してグループのメンバーを管理します。
- 「リソースのリスト」ページでマウスの右クリックメニューからリソースオブジェクトを検索する場合、「is not」オプションを指定しても正しいオブジェクトリストが返されません (ID-6194)。

リソースグループ

- 「リソースグループの作成」または「リソースグループの編集」ページで Return キーを使用すると、ページに加えた変更がクリアされます (ID-3430)。
- リソースグループレポートを CSV ファイルとして保存できません (ID-8001)。

セキュリティー

- 暗号化されたデータを含むオブジェクトをインポートし、そのデータが、データのインポート先であるリポジトリに存在しない暗号化キーで暗号化されていた場合、オブジェクトのインポートは行われますが、サーバー暗号化キーが見つからないためデータを復号化できないという警告メッセージが表示されます (ID-12143)。

Sun Identity Manager Gateway

- 「NT サービス」画面で「終了」ボタンをクリックしても、Sun Identity Manager Gateway は停止しないことがあります (ID-590)。これを解決するには、サービス停止要求 (ハング状態が継続している場合) をキャンセルしてからサービスを停止し直すか、NT サービスダイアログを終了してから再表示し、終了処理を再実行します。
- ゲートウェイがリモート信頼ドメインにある場合、NT ドメインにはグループを追加できません (ID-711)。
- 「net stop "Sun Identity Manager Gateway"」を実行しても、ゲートウェイが停止しないことがあります (ID-2337)。

タスク

- Identity Manager 管理者特権を持つ管理者は、タスクリストにリスク分析タスクが含まれる場合、タスクの管理ページを表示できません (ID-1225)。
- 組織「Top」を管理していない管理者は、検索またはリソーススキャナのスケジュールされたタスクを作成できません (ID-1414)。
- 「タスクの検索」ページには、検索条件と一致するタスクの数が表示されません (ID-5152)。
- スケジュールされたタスクを編集するときは、開始日を MM/DD/YYYY 形式で入力し直す必要があります (ID-5675)。
- 組織「Top」を管理していない委任された管理者は、タスクをスケジュールし、タスク結果を表示することができますが、作成後にタスクを表示することはできません (ID-6659)。スケジュールされたタスクはトップに配置され、委任された管理者には、そのオブジェクトを表示する特権がありません。
- 「Deferred Tasks」という名前のフィールドがライブラリに追加されました。このフィールドによって、ユーザーは延期タスクをリスト表示できるようになります。このフィールドを実装するには、次の行を Tabbed User Form および Tabbed View User Form に追加する必要があります (ID-7660)。

```
<FieldRef name='Deferred Tasks' />
```

ワークフロー、フォーム、規則、XPRESS

- 文字列 TRUE または FALSE、または整数 1 または 2 とブール値の比較に XPRESS <eq> 関数を使用することはできません (ID-3904)。これを解決するには、次を使用します。

```
<cond>
  <isTrue><ref>Boolean_variable</ref></isTrue>
  <s>True action</s>
  <s>False action</s>
</cond>
```


- dolist によって汎用オブジェクトのリストを反復させる場合、パス表現は機能しません (ID-4920)。

```
<dolist name='genericObj'>
  <ref>listOfGenericObjects</ref>
  <ref>genericObj.name</ref>
</dolist>
```

これを解決するには、次のように <get> / <set> を使用します。

```
<dolist name='genericObj'>
  <ref>listOfGenericObjects</ref>
  <get><ref>genericObject</ref><s>name</s>
</dolist>
```

- ユーザーフォームのフィールドでグローバル属性名値を使用し、その属性が複数のリソースで共有される場合、導出 (Derivation) 規則も定義する必要があります (ID-5074)。定義しない場合、いずれかのリソースで属性をネイティブに変更すると、属性の変更がほかのリソースに伝播されたり、されなかったりします。
- フォームの HTML コンポーネントでは、& から始まる特殊文字列は使用できません。たとえば、 は空白文字を表さなくなりました。この問題は、選択リストでの特殊文字 (&¥<>) のサポートの変更によって生じました (ID-5548)。
- <Comment> タグに指定されたフォーム、ワークフロー、規則のコメントには、改行文字を表す文字列として
 が含まれます (ID-6243)。これらの文字は、これらのオブジェクトの XML を表示した場合にだけ表示され、Identity Manager サーバーとビジネスプロセスエディタは、これらの文字を正しく処理します。
- 「Resource Table User Form」を使用してユーザーの編集を行うと、ユーザーのリソースの編集時、フォームが最初に表示されるときにリソースの属性がフェッチされません。回避策として、「更新」ボタンをクリックすれば、属性データがフェッチされます (ID-10551)。

Identity Manager SPE

- Identity Manager SPE と Sun Java System Portal Server に互換性がない場合があります。暗号化されたライブラリに関連する問題があります (ID-10744)。

この問題は、Portal Server の

/etc/opt/SUNWam/config/AMConfig.properties ファイルに次の値を設定して Web コンテナを再起動すると修正できます。

```
com.ipplanet.security.encryptor=com.ipplanet.services.util.JCEEncryption
com.ipplanet.security.SSLSocketFactoryImpl=net.sourceforge.jssse.factory.
JSSESocketFactory
com.ipplanet.security.SecureRandomFactoryImpl=com.ipplanet.am.util.
SecureRandomFactoryImpl
```

- SPE ダッシュボードの操作時：グラフを最初に読み込むときに何分もかかってしまう場合は、ブラウザが Microsoft Java Virtual Machine (MSJVM) を使用するよう設定されていないことを確認してください。Identity Manager SPE は、MSJVM を使用したブラウザのアプリレットの実行をサポートしていません (ID-10837)。
- Identity Manager 管理者インターフェースに表示される設定オプションの一部は、Identity Manager SPE では使用されません (ID-10843)。該当するものには次のようなオプションがあります。
 - リソースウィザード設定オプション：パスワードポリシー、アカウントポリシー、アカウント除外規則、承認者、および組織
 - ロール属性
- デフォルトでは、IDMXContext API が呼び出す `checkinObject` および `deleteObject` を使用すると監査は実行されません。監査を実行するには、これらのメソッドに渡されるオプションマップで `IDMXContext.OP_AUDIT` キーを `true` に設定することで、明示的に要求する必要があります。ApiUsage クラスの `createAndLinkUser()` メソッドに、監査の要求方法が示されています (ID-11261)。
- Active Sync の LDAP リソースアダプタを設定する場合は、「Active Sync の一般設定」ページの「変更者フィルタ」フィールドにある「リソースパラメータ」ページの「ユーザー DN」フィールドに値を指定する必要があります。この値を設定しない場合、Active Sync は独自の変更を処理し続けるため、プロセスは完了しません (ID-11323)。

Identity Auditor

管理インタフェース

- 「是正」タブの「完了」サブタブの選択時に、色が変わりません (ID-9149)。
- Identity Auditor および Identity Manager でローカライズが有効になっている場合、アプリケーションサーバーのロケール設定によって 2 つの言語が表示されてしまうことがあります (ID-9468)。

回避策：ロケール値を「C」に設定すると、この問題を解決できることがあります。

承認

Identity Manager の承認は、Identity Auditor の「是正」ページではサポートされていません。承認を実行するには、Identity Manager の「承認」ページを開きます (ID-9479)。

監査ポリシー

- スキャン中は、リソースから取得できないなどの失敗が発生したユーザーアカウントの再試行はサポートはされていません。これらの失敗はスキャンの完了時にレポートされますが、アカウントの再スキャンを自動的に実行する方法はありません (ID-9112)。
- スキャンが起動するスレッド数を設定するには、タスクを起動しているフォームに `maxThreads` という名前のフィールドを追加します。デフォルト値は 5 です (ID-9127)。
- Identity Auditor は、ユーザーが編集されたときには必ずポリシーを適用することによって、ポリシーのスキャンから次のスキャンまでの間、ユーザーがポリシーに適合した状態を保持するようにします。監査ポリシーを割り当てられているユーザーがポリシー違反をしている場合は、そのユーザーを編集してもユーザーへの変更を保存することができません。これは、ユーザーを別の組織に移動するなどの単純な変更でも該当します (ID-9504)。

回避策：ユーザーアプレット上の右クリック移動機能（または検索後に移動機能）を使用します。または、監査ポリシーのチェックを一時的に無効にします。

監査ポリシーのチェックを無効にするには、システム設定を編集し、`userViewValidators` プロパティを削除します。このプロパティは文字列のリストを値に持ちますが、`init.xml` または `upgrade.xml` のインポート中に追加されます。

レポート

- 監査ポリシー別、リソース別、および組織別の違反履歴レポートで、対数スケールを「積み重ね」のグラフに実装すると、表示に異常が生じることがあります (ID-9522)。

4 ドキュメントの追加事項と修正事項

このタイトルに隣接して表示されるコンポーネントは CN 章番号です。

Identity システムソフトウェアガイドについて

Identity システムソフトウェアのドキュメントは、複数のガイドから構成され、Identity Install Pack CD に Acrobat (.pdf) 形式で収録されています。本リリースには次のガイドが含まれています。

Identity システムソフトウェア

Install Pack Installation (Identity_Install_Pack_Installation_2005Q4M3.pdf)
－ Identity システムソフトウェアのインストールと更新の方法を説明します。

Identity Manager

- Identity Manager 管理ガイド (IDM_Administration_2005Q4M3.pdf) － Identity Manager の管理者とユーザーのインタフェースについて説明します。
- Identity Manager Upgrade (IDM_Upgrade_2005Q4M3.pdf) － アップグレードのための計画とアップグレードの実行に役立つ情報が記載されています。

注 このリリースでは、『Identity Manager Technical Deployment』および『Identity Manager Technical Reference』が次のマニュアルに再編成されています。

- 『Identity Manager Technical Deployment Overview』
(IDM_Deployment_Overview_2005Q4M3.pdf) － オブジェクトのアーキテクチャーなど、Identity Manager 製品の概念面の概要を示し、製品の基本コンポーネントを紹介します。
- 『Identity Manager Workflows, Forms, and Views』
(IDM_Workflows_Forms_Views_2005Q4M3.pdf) － リファレンスと手順説明を通じて、Identity Manager のワークフロー、フォーム、およびビューの使用法を説明します。これらのオブジェクトをカスタマイズするために必要なツールに関する情報も記載されています。
- 『Identity Manager Deployment Tools』
(IDM_Deployment_Tools_2005Q4M3.pdf) － リファレンスと手順説明を通じて、各種の Identity Manager 配備ツールの使用法を説明します。規則と規則ライブラリ、共通のタスクとプロセス、辞書のサポート、Identity Manager サーバーによって提供される SOAP ベースの Web サービスインタフェースなどの事項についても説明します。
- 『Identity Manager Resources Reference』
(IDM_Resources_Reference_2005Q4M3.pdf) － リファレンスと手順説明を通じて、アカウント情報をリソースから Sun Java™ System Identity Manager にロードして同期する方法を説明します。

- 『Identity Manager Audit Logging』 (IDM_Audit_Logging_2005Q4M3.pdf) — リファレンスと手順説明を通じて、アカウント情報をリソースから Sun Java™ System Identity Manager にロードして同期する方法を説明します。
- 『Identity Manager Tuning, Troubleshooting, and Error Messages』 (IDM_Troubleshooting_2005Q4M3.pdf) — リファレンスと手順説明を通じて、Identity Manager のエラーメッセージと例外について説明し、作業中に発生する可能性のある問題を追跡して解決する手順を示します。

Identity Auditor

Identity Auditor 管理ガイド (IDA_Administration_2005Q4M3.pdf) — Identity Auditor の管理者インタフェースについて説明します。

Identity Manager Service Provider Edition

- Identity Manager Service Provider Edition Administration Addendum (SPE_Administration_2005Q4M3.pdf) — Identity Manager SPE の機能について説明します。
- Identity Manager Service Provider Edition Deployment (SPE_Deployment_2005Q3M3.pdf) — Identity Manager SPE の配備に関する情報を提供します。

オンラインガイドの操作

ガイドを操作するには、Acrobat のブックマーク機能を使用します。ブックマークパネルに節や項のタイトルを入力すると、ドキュメント内のその節や項の位置にジャンプできます。

Web ブラウザから `idm/doc` ディレクトリにアクセスすることで、すべての Identity Manager インストールで Identity Manager のドキュメントを表示できます。

Install Pack Installation

追加事項

インストーラの機能強化と更新についての新しい情報が追加されました。

修正事項

- このリリースでは JDK 1.4.2 のインストールが必要なため、第 5 章の「For JDK 1.3.x:」の節は不要になりました。同じ章の「For JDK 1.4」は「For JDK 1.4.2」が正しい節タイトルです。

付録 E の注の正しい記述は次のとおりです。

注 このリリースでは 1.4.2 のインストールが必要であるため、サポートされるすべての環境に JCE 1.2 が含まれており、この付録の情報は該当しなくなりました。

- 第 1 章の「サポートされているソフトウェアと環境」の「サポートされているリソース」で、Red Hat に関する正しい記述は次のとおりです。
 - Red Hat Linux Advanced Server 2.1
 - Red Hat Linux Enterprise Server 3.0、4.0

Identity Manager 管理ガイド

追加事項

- サンライズが設定された場合、ユーザーを作成すると作業項目が作成され、「承認」タブに表示されます。この項目を承認するとサンライズの日付が上書きされ、アカウントが作成されます。
- 調整をスケジュールするときに、スケジュールのカスタマイズに使用する規則の名前を指定できるようになりました。たとえば、規則によって、土曜日にスケジュールされた調整を次の月曜日に延期することができます (ID-11391)。

Identity Manager Technical Deployment Overview

関連付けられたワークフロー、フォーム、および JSP に関する次の説明は、『Identity Manager Technical Deployment Overview』のアーキテクチャーの概要に属します (ID-7332)。

プロセス実行

ユーザーがページ上のフィールドにデータを入力して「保存」をクリックすると、ビュー、ワークフロー、およびフォームの各コンポーネントが連携して、データを処理するために必要なプロセスを実行します。

Identity Manager 内の各ページには、そのページに関連付けられ、必要なデータ処理を実行するビュー、ワークフロー、およびフォームがあります。次の 2 つの表で、これらのワークフロー、ビュー、およびフォーム間の関連を示します。

Identity Manager ユーザーインタフェースのプロセス

次の表は、Identity Manager のユーザーインタフェースの各ページから開始されるプロセスに関するフォーム、ビュー、およびワークフローを示したものです。

ユーザーインタフェースのページ	フォーム	ビュー	ワークフロー
メインメニュー	• endUserMenu • デフォルトの End User Menu	ユーザー ビューは読み取り専用です。このページでは変更は行えません	なし
パスワードの変更	• endUserChangePassword • デフォルトの Change Password Form	パスワード	• changeUserPassword • デフォルトの Change User Password
その他のアカウント属性の変更	• endUserForm • デフォルトの End User Form	ユーザー	Update User
プロセスステータスの確認	• endUserTaskList • デフォルトの End User Task List	リスト ビューにはユーザーが起動した TaskInstance オブジェクトの情報が含まれます	なし
プロセスステータスページは TaskViewResults クラスによって生成されます	なし	なし	なし
利用可能なプロセス	• endUserLaunchList • デフォルトの End User Launch List	リスト ビューにはユーザーがアクセス可能な TaskDefinition オブジェクトの情報が含まれます	なし

ユーザーインタフェースのページ	フォーム	ビュー	ワークフロー
プロセスの起動 選択された TaskDefinition を起動します	TaskDefinition によって定義されます	プロセス	なし
認証質問の回答の変更	- changeAnswers - デフォルトの Change User Answers Form	ChangeUserAnswers	なし
自己検索 既存のリソースアカウントにのみリンクできます	- selfDiscovery - デフォルトの Self Discovery	ユーザー	Update User
インボックス	- endUserWorkItemList - デフォルトの End User Work Item List	リスト ビューには現在のユーザーが直接所有する作業項目の情報が含まれます	なし
インボックスアイテム編集	作業項目により指定されるか、自動生成されます	作業項目	なし

管理者インタフェースのプロセス

次の表は、Identity Manager の管理者インタフェースの各ページから開始されるプロセスに関係するフォーム、ビュー、ワークフロー、および JSP を示したものです。

管理者インタフェースのページ	フォーム	ビュー	ワークフロー
「組織の作成」と「組織の編集」	システム設定マッピング コンテキストに依存し、 次のフォームのいずれか になる可能性があります。 • Organization Form • Organization Rename Form • Directory Junction Form • Virtual Organization Form • Virtual Organization Refresh Form	Org	なし
ユーザーの作成	• userForm • デフォルトの Tabbed User Form	ユーザー	• createUser • デフォルトの Create User
ユーザーの更新	• userForm • デフォルトの Tabbed User Form	ユーザー	• updateUser • デフォルトの Update User
ユーザーのリソースアカウントの無効化	• disableUser • デフォルトの Disable User	無効化	• disableUser • デフォルトの Disable User
ユーザーの名前変更	• renameUser • デフォルトの Rename User Form	RenameUser	• renameUser • デフォルトの Rename User
ユーザーのリソースアカウントの更新	• reprovisionUser • デフォルトの Reprovision Form	再プロビジョン	• updateUser • デフォルトの Update User
ユーザーのリソースアカウントのロック解除	• unlockUser • デフォルトの Unlock User	ロック解除	• unlockUser • デフォルトの Unlock User
ユーザーのリソースアカウントの削除	• deprovisionUser • デフォルトの Deprovision Form	プロビジョン解除	• deleteUser • デフォルトの Delete User

管理者インタフェースのページ	フォーム	ビュー	ワークフロー
ユーザーパスワードの変更 エンドユーザー GUIと同じワークフローを使用しますが、フォームは異なります	- changePassword - デフォルトの Change User Password Form	ChangeUserPassword	- changeUserPassword - デフォルトの Change User Password
ユーザーパスワードのリセット	- resetPassword - デフォルトの Reset User Password Form	ResetUserPassword	- changeUserPassword - デフォルトの Change User Password
自分のパスワードの変更 エンドユーザーの「パスワードの変更」と同じビュー、フォーム、ワークフローですが JSP は異なります	- endUserChangePassword - デフォルトの Change Password Form	パスワード	- changeUserPassword - デフォルトの Change User Password
自分の認証質問の回答の変更 エンドユーザーの「回答の変更」と同じビュー、フォームですが JSP は異なります	- changeAnswers - デフォルトの Change User Answers Form	ChangeUserAnswers	なし
承認	- workItemList - デフォルトの Work Item List - デフォルトのフォームは「Work Item Confirmation」を含みます	WorkItemList	なし

管理者インタフェースのページ	フォーム	ビュー	ワークフロー
作業項目の編集 作成元ワークフローの再開時に Work Item ビューの結果をチェックインするが、作業項目のチェックインを処理するためのワークフローは作成されません	作業項目により指定されるか、自動生成されます	作業項目	なし
タスクの起動 選択された TaskDefinition を起動します	TaskDefinition によって定義されます	プロセス	なし
「スケジュールされたタスクの作成」と「スケジュールされたタスクの更新」	システム設定マッピングなし、デフォルトの Task Schedule Form、TaskDefinition フォームとマージ このフォームは TaskDefinition フォームと、ラッパーとしての Task Schedule Form を結合することによって生成されます	TaskSchedule	なし

管理者インタフェースのページ	フォーム	ビュー	ワークフロー
「ロールの作成」と 「ロールの編集」	システム設定マッピング なし コンテキストによって、 デフォルトの Role Form と Role Rename Form	ロール	• manageRole • デフォルトの Manage Role
リソースの編集	システム設定マッピング なし、コンテキストに依 存し、次のいずれかの フォームになります。 • Change Resource Account Password Form • Reset Resource Account Password Form • Edit Resource Policy Form • Resource Rename Form • Resource Wizard < リ ソースタイプ > • Resource Wizard タイプ固有のウィザード フォームを許可し、デ フォルトはリソースウィ ザードです	リソース	• manageResource • デフォルトの Manage Resource
機能の編集	changeCapabilities、デ フォルトの Change User Capabilities Form	ChangeUserCap abilities	なし

Java Server Pages (JSP) と Identity Manager でのその役割

次の表には、システムに含まれる JSP と、それらが管理者インタフェースおよびユーザーインタフェースのどのページに対応するかを示します。

Identity Manager ユーザーインタフェースの JSP

ページ	関連付けられた JSP
メインメニュー	user/main.jsp
パスワードの変更	user/changePassword.jsp
その他のアカウント属性の変更	user/changeAll.jsp
プロセスステータスの確認	user/processStatusList.jsp
プロセスステータス	user/processStatus.jsp
利用可能なプロセス	user/processList.jsp
プロセスの起動	user/processLaunch.jsp
認証質問の回答の変更	user/changeAnswers.jsp
自己検索	user/selfDiscover.jsp
インボックス	user/workItemList.jsp
インボックスアイテム編集	user/workItemEdit.jsp

管理者インタフェースの JSP

ページ	関連付けられた JSP
「組織の作成」と「組織の編集」	security/orgedit.jsp
ユーザーの作成	account/modify.jsp
ユーザーの更新	account/modify.jsp
ユーザーのリソースアカウントの無効化	account/resourceDisable.jsp
ユーザーの名前変更	account/renameUser.jsp
ユーザーのリソースアカウントの更新	account/resourceReprovision.jsp
ユーザーのリソースアカウントのロック解除	admin/resourceUnlock.jsp
ユーザーのリソースアカウントの削除	account/resourceDeprovision.jsp
ユーザーパスワードの変更	admin/changeUserPassword.jsp
ユーザーパスワードのリセット	admin/resetUserPassword.jsp

ページ	関連付けられた JSP
自分のパスワードの変更	admin/changeself.jsp
自分の認証質問の回答の変更	admin/changeAnswers.jsp
承認	approval/approval.jsp
作業項目の編集	approval/itemEdit.jsp
タスクの起動	task/taskLaunch.jsp
「スケジュールされたタスクの作成」と「スケジュールされたタスクの更新」	task/editSchedule.jsp
「ロールの作成」と「ロールの編集」	roles/applicationmodify.jsp
リソースの編集	resources/modify.jsp
機能の編集	account/modifyCapabilities.jsp

Identity Manager Tuning, Troubleshooting, and Error Messages

追加事項

タスクに問題がある場合に、com.waveset.task.Scheduler の標準追跡機能を使ってタスクスケジューラを追跡できるようになりました。

詳細については、『Sun Java™ System Identity Manager Tuning, Troubleshooting, and Error Messages』の「Tracing the Identity Manager Server」を参照してください。

修正事項

このリリースでは JDK 1.4.2 をインストールする必要があるため、第 1 章「Performance Tuning, Optimizing the J2EE Environment」の、Cryptix の jar ファイル (cryptix-jceapi.jar および cryptix-jce-provider.jar) を idm¥WEB-INF¥lib ディレクトリから削除するという指示は該当しなくなりました (Identity Manager の以前のバージョンからアップグレードしている場合を除く)。

helpTool の使用

Identity Manager 6.0 リリースでは、HTML 形式のオンラインヘルプおよびマニュアルファイルを検索できる新しい機能が追加されました。検索エンジンは SunLabs の「Nova」検索エンジン技術をベースとしています。

Nova エンジンの使用には、インデックス作成と検索の 2 つの段階があります。インデックス作成段階では、入力ドキュメントが分析され、検索段階で使用されるインデックスが作成されます。検索では、検索語が見つかったコンテキストで構成される「パッセージ」を抽出することが可能です。パッセージ検索プロセスでは元の HTML ファイルが存在している必要があるため、これらのファイルが、検索エンジンがアクセス可能なファイルシステム内の場所に存在している必要があります。

helpTool は、次の 2 つの基本機能を実行する Java プログラムです。

- 検索エンジンが認識している場所に HTML ソースファイルをコピーします。
- 検索段階で使われるインデックスを作成します。

helpTool はコマンド行から次のようにして実行します。

```
$ java -jar helpTool.jar
```

使用法: HelpTool

- d 検索先ディレクトリ
- h このヘルプ情報
- i 入力ファイルを含むディレクトリまたは JAR、ワイルドカードは不可
- n Nova インデックスのディレクトリ
- o 出力ファイル名
- p プロパティファイルのインデックス作成

オンラインヘルプインデックスの再構築 / 再作成

オンラインヘルプの HTML ファイルは JAR ファイルにパッケージ化されています。これらのファイルを、検索エンジン用のディレクトリに展開する必要があります。次の手順を使用します。

1. helpTool の配布パッケージを一時ディレクトリに展開します。(詳細は未定)
この例では、ファイルを /tmp/helpTool に展開します。
2. UNIX シェルまたは Windows のコマンドウィンドウで、Identity Manager アプリケーションが Web コンテナに配備されたディレクトリに移動します。
たとえば、Sun Java System Application Server のディレクトリは次のようになります。

```
/opt/SUNWappserver/domains/domain1/applications/j2ee-modules/idm
```


3. 現在の作業ディレクトリを help/ ディレクトリに変更します。

注 このディレクトリから helpTool を実行することが重要です。そうしないと、インデックスが正しく作成されません。また、index/help/ サブディレクトリの内容を削除することによって、古いインデックスファイルを削除することをお勧めします。

4. コマンド行引数に指定する次の情報を収集します。

• 検索先ディレクトリ:	html/help/en_US 注: インストール環境に適したロケール文字列を使用してください。
• 入力ファイル:	../WEB-INF/lib/idm.jar
• Nova インデックスディレクトリ:	index/help
• 出力ファイル名:	index_files_help.txt 注: ファイルの名前は重要ではありませんが、そのファイルがすでに存在する場合、ツールは終了します。
• インデックス作成プロパティファイル:	index/index.properties

5. 次のコマンドを実行します。

```
$ java -jar /tmp/helpTool/helpTool.jar -d html/help/en_US -i ../
WEB-INF/lib/idm.jar -n index/help -o help_files_help.txt -p
index/index.properties
Extracted 475 files.
[15/Dec/2005:13:11:38] PM Init index/help AWord 1085803878
[15/Dec/2005:13:11:38] PM Making meta file: index/help/MF: 0
[15/Dec/2005:13:11:38] PM Created active file: index/help/AL
[15/Dec/2005:13:11:40] MP Partition: 1, 475 documents, 5496
terms.
[15/Dec/2005:13:11:40] MP Finished dumping: 1 index/help 0.266
[15/Dec/2005:13:11:40] IS 475 documents, 6.56 MB, 2.11 s,
11166.66 MB/h
[15/Dec/2005:13:11:40] PM Waiting for housekeeper to finish
[15/Dec/2005:13:11:41] PM Shutdown index/help AWord 1085803878
```

マニュアルインデックスの再構築 / 再作成

マニュアルインデックスを再構築または再作成するには、次の手順を使用します。

1. helpTool の配布パッケージを一時ディレクトリに展開します。(詳細は未定)
この例では、ファイルを /tmp/helpTool に展開します。
2. UNIX シェルまたは Windows のコマンドウィンドウで、Identity Manager アプリケーションが Web コンテナに配備されたディレクトリに移動します。

たとえば、Sun Java System Application Server のディレクトリは次のようになります。

```
/opt/SUNWappserver/domains/domain1/applications/j2ee-modules/idm
```

3. 現在の作業ディレクトリを help/ ディレクトリに変更します。

注 このディレクトリから helpTool を実行する必要があります。そうしないと、インデックスが正しく作成されません。また、index/docs/ サブディレクトリの内容を削除することによって、古いインデックスファイルを削除することをお勧めします。

4. コマンド行引数に指定する次の情報を収集します。

• 検索先ディレクトリ:	html/docs
• 入力ファイル:	../doc/HTML/en_US 注: ツールは en_US/ ディレクトリとサブディレクトリを検索先にコピーします。
• Nova インデックスディレクトリ:	index/docs
• 出力ファイル名:	index_files_docs.txt 注: ファイルの名前は重要ではありませんが、そのファイルがすでに存在する場合、ツールは終了します。
• インデックス作成プロパティファイル:	index/index.properties

5. 次のコマンドを実行します。

```
$ java -jar /tmp/helpTool/helpTool.jar -d html/docs -i
../doc/HTML/en_US -n index/docs -o help_files_docs.txt -p
index/index.properties
Copied 84 files.
Copied 105 files.
Copied 1 files.
Copied 15 files.
Copied 1 files.
Copied 58 files.
Copied 134 files.
```

```
Copied 156 files.
Copied 116 files.
Copied 136 files.
Copied 21 files.
Copied 37 files.
Copied 1 files.
Copied 13 files.
Copied 2 files.
Copied 19 files.
Copied 20 files.
Copied 52 files.
Copied 3 files.
Copied 14 files.
Copied 3 files.
Copied 3 files.
Copied 608 files.
[15/Dec/2005:13:24:25] PM Init index/docs AWord 1252155067
[15/Dec/2005:13:24:25] PM Making meta file: index/docs/MF: 0
[15/Dec/2005:13:24:25] PM Created active file: index/docs/AL
[15/Dec/2005:13:24:28] MP Partition: 1, 192 documents, 38488
terms.
[15/Dec/2005:13:24:29] MP Finished dumping: 1 index/docs 0.617
[15/Dec/2005:13:24:29] IS 192 documents, 14.70 MB, 3.81 s,
13900.78 MB/h
[15/Dec/2005:13:24:29] PM Waiting for housekeeper to finish
[15/Dec/2005:13:24:30] PM Shutdown index/docs AWord 1252155067
```

helpTool の使用

5 国際化の有効化

ここでは、Identity Manager で複数の言語を使用する場合や英語以外の言語を表示する場合の設定方法について説明します。

アーキテクチャーの概要

コンポーネント

ファイル	説明
WPMessages.properties	デフォルトのメッセージファイル。 \$WSHOME/idm/web/WEB-INF/classes/com/waveset/msgcat に格納されます。idmcommon.jar ファイルの一部として出荷されます。 英語のメッセージテキストを表示し、インストールした IDM を英語以外で動作するようにカスタマイズしていない限り、デフォルトで読み込まれます。
Waveset.properties	\$WSHOME/config に格納されます。このファイルを編集して、複数言語のサポートを有効にします。 Internationalization.enabled を true に設定します。
システム設定オブジェクト	カスタムメッセージカタログを指定します。
サポートされる各言語に対応した追加のメッセージファイル	サポートされる追加の言語には、それぞれ独自のメッセージファイル WPMessages_xx_XX.properties が必要です。xx は言語を、XX は国を表します。たとえば、WPMessages_en_US.properties には、アメリカ英語のメッセージが格納されています。国際化カタログには、それぞれ独自の .jar ファイルがあります。
i18n.xml	Identity Manager 管理者またはユーザーが選択できる言語を定義する複数の <Object> 要素が含まれます。

注意：

- /config の新しいカタログを読み込んだ場合は、新しいカタログがデフォルトより優先されます。これは、同じ名前のカタログだけに適用されます。
- 複数のメッセージファイルがある場合、catalogname:keyname を指定することにより、メッセージキーの派生元カタログを指定できます。

一般的なエントリ

メッセージはキーとテキストのペアで格納され、次の3つの部分で構成されます。

- キーとなるテキスト文字列。データを取得するためにコードが使用する識別子です。この必須コンポーネントを翻訳してはいけません。製品の構成で使用され、翻訳時のプレースホルダとして機能します。
- 等号 (=)。キーとテキストを区切ります。これは必須です。
- アプリケーションの実行時に表示されるデータを含む文字列。翻訳されたメッセージで、ブラウザがページを表示するたびにキーの代わりに使用されます。

リソース配列の各行には、2つの文字列が含まれます。各行の引用符で囲まれた2番目の文字列を翻訳します。

文字列に挿入されるデータについては、表示されるときに特定の文字列が特定の特別なコードに変換されます。たとえば、次の文字列を変換する場合があります。

`UI_USER_CONNECT={0}、100 mbs` で接続

これは、「`jfaux、100 mbs` で接続」のように表示されます。

通常、変換はブラウザ内で表示されるので、次のように HTML タグを追加して文字列の書式を設定することをお勧めします。

`_FM_ACCOUNT_ID_HELP=<b>Account ID</b><br>` このユーザーの名前を入力してください。このフィールドは必須です。

複数言語のサポートの有効化

複数言語カタログのサポートを有効にするには、次の詳細な手順に従います。

- ローカライズ版ファイルをダウンロードします。
- `Waveset.properties` ファイルを編集し、`Internationalization.enabled` を `true` に設定します。
- `¥sample¥i18n.xml` ファイルをインポートし、編集後、読み込みます。
- Identity Manager を再起動します。
- ログイン画面で言語を選択します。デフォルト言語がユーザーのブラウザで選択されている言語と一致するようにしてください。

手順 1: ローカライズ版ファイルのダウンロードとインストール

インストールの前に

ローカライズ版ファイルをインストールする前に、次の手順を実行します。

1. Identity Manager をインストールします。詳細なインストール手順については、『Identity Install Pack Installation』を参照してください。
2. アプリケーションサーバー上で次のロケールが UTF-8 に設定されていることを確認します。
 - アプリケーションサーバーインスタンス
 - データベース
 - Java 仮想マシン (JVM)
 ロケールの設定方法については、各製品のドキュメントを参照してください。

メッセージカタログファイルのダウンロード

適切な msgcat jar をダウンロードして WEB-INF/lib に配置します。Identity Manager Image Server Web サイトでは、ローカライズ版の製品ファイルとドキュメントを含む次の ZIP ファイルが提供されています。

ファイル名 (.zip)	言語	ロケール
IDM__5_0_l10n_de	ドイツ語	de_DE
IDM__5_0_l10n_es	スペイン語	es_ES
IDM__5_0_l10n_fr	フランス語 (フランスおよびカナダ)	fr_FR
IDM__5_0_l10n_it	イタリア語	it_IT
IDM__5_0_l10n_ja	日本語	ja_JP
IDM__5_0_l10n_ko	韓国語	ko_KR
IDM__5_0_l10n_pt	ポルトガル語 (ブラジル)	pt_BR
IDM__5_0_l10n_zh	簡体字中国語	zh_CN
IDM__5_0_l10n_zh_TW	繁体字中国語	zh_TW

ZIP ファイルを一時的に使用する場所にダウンロードします。デフォルトでは、ZIP ファイルの内容は `FileName¥IDM_5_0_l10n` ディレクトリに解凍されます。この `FileName` は、ダウンロードされたファイルの名前から拡張子 ZIP を除いたものと一致します。

Zip ファイルの内容

解凍された ZIP ファイルにはすべて、次の内容が格納されています。

- ローカライズ版のメッセージカタログ、ヘルプファイル、およびその他の必須ファイルを含む JAR ファイル。この JAR ファイルには `IDM_5_0_l10n_Locale.jar` という名前が付けられています。

- Identity Manager Localization README

ほとんどの解凍された ZIP ファイルには、次の内容が格納されています。

- Identity Manager 5.0 リリースノートの翻訳バージョン
- 『Identity Manager 管理ガイド』の翻訳バージョン

その他の翻訳された発行物が提供されることもあります。

ローカライズ版ファイルのインストール

アプリケーションサーバーにローカライズ版ファイルをインストールするには、次の手順を実行します。

1. JAR ファイルを一時的に使用する場所から
IdentityManagerInstallation/WEB-INF/lib ディレクトリにコピーします。

手順 2: Waveset.Properties ファイルの編集

1. テキストエディタで *IdentityManagerInstallation/config/Waveset.properties* ファイルを開きます。
2. *Internationalization.enabled* プロパティを *true* に変更します。
3. 変更を保存して、ファイルを閉じます。
4. 変更を反映させるために、Identity Manager を再起動するか、デバッグページから「Reload Properties」を選択します。

手順 3: <ApplicationDirectory>%sample%i18n.xml ファイルのインポート、編集、および読み込み

このファイルで、Identity Manager 管理者とエンドユーザーに表示できる言語を設定します。

1. *IdentityManagerInstallation/sample/i18n.xml* ファイルをテキストエディタで開きます。このファイルには、Identity Manager 管理者またはユーザーが選択できる言語を定義する複数の <Object> 要素が含まれます。各 <Object> 要素は、次のようになります。

```
<Object name='en_US'>
  <Attribute name='lang' value='en' />
  <Attribute name='cntry' value='US' />
  <Attribute name='gif' value='images/f0-us.gif' />
</Object>
```
2. 環境に適した言語だけになるように、<Object> 要素の追加、編集、削除を繰り返します。<Object> 要素を追加または編集する必要がある場合は、次の表を使用してオブジェクト *name*、*lang*、*cntry*、および *gif* の適切な値を決定してください。

言語	name	lang	cntry	gif
中国語 (簡体字)	zh_CN	zh	CN	images/f0-cn.gif
中国語 (繁体字)	zh_TW	zh	TW	images/f0-cn.gif
英語 (U.S.)	en_US	en	US	images/f0-us.gif
フランス語 (カナダ)	fr_CA	fr	CA	images/f0-ca.gif
フランス語 (フランス)	fr_FR	fr	FR	images/f0-fr.gif
ドイツ語 (ドイツ)	de_DE	de	DE	images/f0-de.gif
イタリア語 (イタリア)	it_IT	it	IT	images/f0-it.gif
日本語 (日本)	ja_JP	ja	JP	images/f0-jp.gif
韓国語 (韓国)	ko_KR	ko	KR	images/f0-kr.gif
ポルトガル語 (ブラジル)	pt_BR	pt	BR	images/f0-br.gif
スペイン語 (スペイン)	es_ES	es	ES	images/f0-es.gif

- a. 変更を保存して、ファイルを閉じます。
3. `i18n.xml` ファイルを読み込みます。
 - a. Identity Manager 管理インタフェースにログインします。
 - b. ページ最上部の「設定」タブをクリックします。次に、左側の「交換ファイルのインポート」サブタブをクリックします。
 - c. パスを指定するか、`IdentityManagerInstallation/sample/i18n.xml` ファイルを参照します。次に、「インポート」ボタンをクリックしてファイルを読み込みます。

これらの手順を完了したら、Identity Manager からログアウトします。アプリケーションサーバーを再起動します。Identity Manager ログインページの再読み込み時に、`i18n.xml` ファイルで指定した言語に対応した国旗のイメージのリストが表示されます。適切な国旗を選択して、各言語に翻訳されたテキストを表示します。

6 カスタマイズされたメッセージカタログ

以前のリリースでは、配備担当者は `WPMessages.properties` ファイルを編集することで、メッセージカタログのエントリを追加するか、システムによって提供されるエントリを変更することが推奨されていました。今回のリリースでは、カスタマイズされたメッセージカタログを作成するように推奨されています。カスタムメッセージカタログには、次のようなメリットがあります。

- クラスタ環境でのメンテナンスが軽減されます。個別のメッセージカタログをメンテナンスするということは、`WPMessages.properties` ファイルの複数のコピーを編集する必要がないということです。
- バージョン管理が簡単になります。カスタマイズされたメッセージが一箇所にあれば、変更やバックアップリビジョンの追跡が簡単になります。
- 製品メッセージカタログへのアップグレードがカスタマイズされたエントリへの変更と衝突することはありません。

Identity Manager は、メッセージカタログのエントリを次の順序で取得します。

- ユーザー定義のメッセージカタログ (ユーザー定義のメッセージカタログは 1 つだけ許可される)
- システム定義の `defaultCustomCatalog` メッセージカタログ
- `config/WPMessages.properties` ファイル
- `idmcommon.jar` ファイル内の `WPMessages.properties` ファイル

メッセージカタログの形式

`WPMessages.properties` ファイルでは、エントリは `KeyName=MessageText` という形式で定義されます。カスタマイズされたメッセージカタログでは、各エントリは個別の `Msg` 要素内で指定されます。`KeyName` は `id` 属性で指定され、`MessageText` は間にはさまれたテキストです。次に、メッセージカタログエントリの例を示します。

```
<Msg id='UI_REMEMBER_PASSWORD'>Remember to set your password.</Msg>
```

お勧めしませんが、メッセージテキストに HTML タグを含めることでテキストの表示方法を制御することもできます。HTML タグを使用する必要がある場合は、`<` や `>` などの記号を使用せずに、`<` や `>` などのコードを使用してください。

メッセージテキストには、表示されるときに文字列に挿入されるデータの変数を含めることもできます。次の例は、`AR_CORRELATED_USER` キーのデフォルトのメッセージを示しています。

```
Correlated account with user {0}.
```

レンダリングされたバージョンでは次のように表示されます。

```
Correlated account with user jdoe.
```

カスタマイズされたメッセージカタログの作成

次に、ユーザー定義のメッセージカタログの作成手順について説明します。

1. デフォルトのメッセージカタログエントリを上書きする場合は、適切なエラーメッセージのキーを `WPMessages.properties` ファイル内に配置します。これらのキーは、カスタマイズされたメッセージカタログ内で指定する必要があります。

新しいメッセージを作成する場合は、これらのキーが `WPMessages.properties` ファイル内に表示されていないことを確認します。

2. 次の構文を使用して XML ファイルまたはブロックを作成します。

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<!DOCTYPE Configuration PUBLIC 'waveset.dtd' 'waveset.dtd'>
<Configuration name='CatalogName'>
  <Extension>
    <CustomCatalog id='CatalogName' enabled='true'>
      <MessageSet language='en' country='US'>
        <Msg id='KeyName'>MessageText</Msg>
        <Msg id='KeyName'>MessageText</Msg>
        ...
      </MessageSet>
    </CustomCatalog>
  </Extension>
</Configuration>
```

次のように指定します。

`CatalogName` はメッセージカタログの名前です。この値は、`SystemConfiguration` オブジェクト内でカタログを定義するときにも使用されます。

`KeyName` は、メッセージキーの名前です。

`MessageText` は、グラフィカルユーザーインタフェース上に表示される文字列です。このテキストには HTML タグや変数を含めることができます。

`en_US` 以外のロケールをサポートする場合は、`language` 属性と `country` 属性を変更します。複数のロケールをサポートする場合は、ロケールごとに別々の `MessageSet` 要素を作成します。

実際の例については、「例」の節を参照してください。

3. ファイルまたはブロックを Identity Manager にインポートします。
4. システム設定オブジェクトを読み込み、
`<Configuration><Extension><Object>` 要素内に次の行を追加します。
`<Attribute name='customMessageCatalog' value='CatalogName' />`
5. システム設定オブジェクトへの変更を保存します。
6. アプリケーションサーバーを再起動します。新しいメッセージカタログのエントリをシステムで使用できるようになります。

例

次の例では、myCustomCatalog という名前のカスタマイズされたメッセージカタログを作成します。この例では、**Import Exchange File** サブタブのラベルとヘルプテキストを置き換えます。

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<!DOCTYPE Configuration PUBLIC 'waveset.dtd' 'waveset.dtd'>
<Configuration name='myCustomCatalog'>
  <Extension>
    <CustomCatalog id='myCustomCatalog' enabled='true'>
      <MessageSet language='en' country='US'>
        <Msg id='UI_SUBNAV_CONFIGURE_IMPORT_EXCHANGE'>Import XML
File</Msg>
        <Msg id='UI_SUBNAV_CONFIGURE_IMPORT_EXCHANGE_HELP'>Loads the
specified XML file.</Msg>
      </MessageSet>
    </CustomCatalog>
  </Extension>
</Configuration>
```

カスタマイズされたメッセージカタログ

7 非推奨の API

この章では、Identity Manager 6.0 2005Q4M3 で非推奨になったすべての Identity Manager API (アプリケーションプログラミングインタフェース) と、その代替となる API (存在する場合) の一覧を示します。この章は次の各節に分かれています。

- 非推奨のコンストラクタ (page 7-1)
- 非推奨のメソッドとフィールド (page 7-2)

非推奨のコンストラクタ

次の表は、非推奨になったコンストラクタと代替のコンストラクタ (存在する場合) の一覧です。

非推奨のコンストラクタ	代替
com.waveset.adapter.ActiveDirectoryActiveSyncAdapter	com.waveset.adapter.ADSIResourceAdapter
com.waveset.adapter.AD_LDAPResourceAdapter	com.waveset.adapter.LDAPResourceAdapter
com.waveset.adapter.AttrParse	com.waveset.object.AttrParse
com.waveset.adapter.ConfirmedSync	
com.waveset.adapter.DblBufIterator	com.waveset.util.BufferedIterator com.waveset.util.BlockIterator com.waveset.adapter.AccountIteratorWrapper
com.waveset.adapter.DominoActiveSyncAdapter	com.waveset.adapter.DominoResourceAdapter
com.waveset.adapter.LDAPChangeLogActiveSyncAdapter	com.waveset.adapter.LDAPResourceAdapter
com.waveset.adapter.NDSActiveSyncAdapter	com.waveset.adapter.NDSResourceAdapter
com.waveset.adapter.PeopleSoftResourceAdapter	
com.waveset.adapter.RemedyActiveSyncResourceAdapter	com.waveset.adapter.RemedyResourceAdapter
com.waveset.adapter.TopSecretActiveSyncAdapter	com.waveset.adapter.TopSecretResourceAdapter
com.waveset.exception.ConfigurationError	com.waveset.util.ConfigurationError
com.waveset.exception.IOException	com.waveset.util.IOException

非推奨のコンストラクタ	代替
com.waveset.exception.XmlParseException	com.waveset.util.XmlParseException
com.waveset.object.IAPI	com.waveset.adapter.iapi.IAPI
com.waveset.object.IAPIProcess	com.waveset.adapter.iapi.IAPIFactory
com.waveset.object.IAPIUser	com.waveset.adapter.iapi.IAPIUser
com.waveset.object.RemedyTemplate	
com.waveset.object.ReportCounter	
com.waveset.object.SourceManager	com.waveset.view.SourceAdapterManagerView
com.waveset.security.authn.LoginInfo	com.waveset.object.LoginInfo
com.waveset.security.authn.SignedString	com.waveset.util.SignedString
com.waveset.security.authn.Subject	com.waveset.object.Subject
com.waveset.security.authz.Permission	com.waveset.object.Permission
com.waveset.security.authz.Right	com.waveset.object.Right
com.waveset.util.Debug	com.sun.idm.logging.Trace
com.waveset.util.HtmlUtil	com.waveset.ui.util.html.HtmlUtil
com.waveset.util.ITrace	com.sun.idm.logging.Trace

非推奨のメソッドとフィールド

ここで示す表は、このリリースで非推奨になったすべてのメソッドとフィールドの一覧です。メソッドとフィールドはクラス名によって並べ替えてあります。

「代替」列のデータには、次の種類の情報が含まれる場合があります。

- 列が空白の場合、非推奨のメソッドまたはフィールドの代替はありません。
- クラス名が示されていない場合、代替のメソッドまたはフィールドは、非推奨のメソッドまたはフィールドと同じクラスで定義されます。
- 代替のメソッドまたはフィールドが、非推奨のメソッドまたはフィールドと異なるクラスで定義される場合、Javadoc の構文を使って代替を示しています。たとえば、com.waveset.adapter.ADSIResourceAdapter クラスの `getBaseContextAttrName()` メソッドは非推奨になりました。その代替メソッドは `com.waveset.adapter.ResourceAdapter#ResourceAdapter()` のように示されています。
各部の意味は次のとおりです。
 - `com.waveset.adapter` はパッケージ名です。

- `ResourceAdapter` はクラス名です。
- `ResourceAdapter()` はメソッドと引数のリストです。

`com.waveset.adapter.AccessManagerResourceAdapter`

非推奨のメソッド	代替
<code>handlePDEException(Exception)</code>	<code>handlePDEException(PDEException)</code>

`com.waveset.adapter.ACF2ResourceAdapter`

非推奨のメソッド	代替
<code>getAccountAttributes(String)</code>	

`com.waveset.adapter.ActiveSync`

非推奨のフィールド	代替
<code>RA_UPDATE_IF_DELETE</code>	

`com.waveset.adapter.ActiveSyncUtil`

非推奨のメソッド	代替
<code>getLogFileFullPath()</code>	

com.waveset.adapter.ADSIResourceAdapter

非推奨のメソッドまたはフィールド	代替
buildEvent(UpdateRow)	com.waveset.adapter.iapi.IAPIFactory#getIAPI(Map,Map,ResourceAdapterBase)
getBaseContextAttrName()	com.waveset.adapter.ResourceAdapter#getBaseContexts()
RA_UPDATE_IF_DELETE	com.waveset.adapter.ActiveSync#RA_DELETE_RULE

com.waveset.adapter.AgentResourceAdapter

非推奨のメソッド	代替
getAccountAttributes(String)	

com.waveset.adapter.AIXResourceAdapter.BlockAcctlter

非推奨のメソッド	代替
BlockAcctlter(AIXResourceAdapter,CaptureList)	BlockAcctlter(CaptureList)
BlockAcctlter(int,CaptureList)	BlockAcctlter(CaptureList)

com.waveset.adapter.AuthSSOResourceAdapter

非推奨のメソッド	代替
getAccountAttributes(String)	

com.waveset.adapter.ClearTrustResourceAdapter

非推奨のメソッド	代替
getAccountAttributes(String)	

com.waveset.adapter.DatabaseTableResourceAdapter

非推奨のフィールド	代替
RA_PROCESS_NAME	com.waveset.adapter.ActiveSync#RA_PROCES S_RULE

com.waveset.adapter.DB2ResourceAdapter

非推奨のメソッド	代替
getAccountAttributes(String)	

com.waveset.adapter.DominoResourceAdapter

非推奨のメソッドまたはフィールド	代替
buildEvent(UpdateRow)	com.waveset.adapter.iapi.IAPIFactory#getIAPI(M ap,Map,ResourceAdapterBase)
RA_UPDATE_IF_DELETE	com.waveset.adapter.ActiveSync#RA_DELETE_ RULE

com.waveset.adapter.DominoResourceAdapterBase

非推奨のメソッド	代替
getAccountAttributes(String)	

com.waveset.adapter.ExampleTableResourceAdapter

非推奨のメソッド	代替
getAccountAttributes(String)	

com.waveset.adapter.GenericScriptResourceAdapter

非推奨のメソッド	代替
getAccountAttributes(String)	

com.waveset.adapter.GetAccessResourceAdapter

非推奨のメソッド	代替
getAccountAttributes(String)	

com.waveset.adapter.HostConnectionPool

非推奨のメソッド	代替
getConnection(HostAccessLogin)	com.waveset.adapter.HostConnPool#getAffinityConnection(HostAccessLogin)
releaseConnection(HostAccess)	com.waveset.adapter.HostConnPool#releaseConnection(HostAccess)

com.waveset.adapter.HostConnPool

非推奨のメソッド	代替
getConnection(HostAccessLogin)	getAffinityConnection(HostAccessLogin)
putFree()	

com.waveset.adapter.iapi.IAPIFactory

非推奨のメソッド	代替
getIAPIDProcess(Map,Map,String,Resource)	getIAPI(Map,Map,String,ResourceAdapterBase)
getIAPIDProcess(Element)	
getIAPIUser(Element)	
getIAPIUser(Map,Map,String,Map)	getIAPI(Map,Map,String,ResourceAdapterBase)
getIAPIUser(Map,Map,String,Resource)	getIAPI(Map,Map,String,ResourceAdapterBase)

com.waveset.adapter.IDMResourceAdapter

非推奨のメソッド	代替
getAccountAttributes(String)	

com.waveset.adapter.INISafeNexessResourceAdapter

非推奨のメソッド	代替
getAccountAttributes(String)	

com.waveset.adapter.LDAPResourceAdapterBase

非推奨のメソッドまたはフィールド	代替
addUserToGroup(LDAPObject,String,String)	addUserToGroup(String,String,String)
buildBaseUrl()	
buildBaseUrl(String)	
buildEvent(UpdateRow)	
getAccountAttributes(String)	
getBaseContextAttrName()	com.waveset.adapter.ResourceAdapter#getBaseContexts()

非推奨のメソッドとフィールド

非推奨のメソッドまたはフィールド	代替
getGroups(Name,String,Vector,Vector)	getGroups(String,String,Vector,Vector)
getLDAPAttributes(String,DirContext[],String)	getLDAPAttributes(String,DirContext,String,String[])
getLDAPAttributes(String,DirContext[])	getLDAPAttributes(String,DirContext,String,String[])
RA_PROCESS_NAME	com.waveset.adapter.ActiveSync#RA_PROCESS_RULE
removeNameFromAttribute(DirContext,Name,Attribute)	removeNameFromAttribute(DirContext,String,boolean,Attribute)
removeUserFromAllGroups(Name,String,WavesetResult)	removeUserFromAllGroups(String,boolean,String,WavesetResult)
removeUserFromGroup(DirContext,Name,String,String,Attributes)	removeUserFromGroup(DirContext,String,boolean,String,String,Attributes)
removeUserFromGroups(Name,Vector,String,WavesetResult)	removeUserFromGroups(String,boolean,Vector,String,WavesetResult)

com.waveset.adapter.MySQLResourceAdapter

非推奨のメソッド	代替
getAccountAttributes(String)	

com.waveset.adapter.NaturalResourceAdapter

非推奨のメソッド	代替
getAccountAttributes(String)	

com.waveset.adapter.NDSResourceAdapter

非推奨のメソッド	代替
buildEvent(UpdateRow)	
getBaseContextAttrName()	com.waveset.adapter.ResourceAdapter#getBaseContexts()

com.waveset.adapter.ONTDirectorySmartResourceAdapter

非推奨のメソッド	代替
getAccountAttributes(String)	

com.waveset.adapter.OS400ResourceAdapter

非推奨のメソッド	代替
getAccountAttributes(String)	

com.waveset.adapter.PeopleSoftComponentActiveSyncAdapter

非推奨のメソッドまたはフィールド	代替
DEFAULT_AUDIT_STAMP_FORMAT	
DEFAULT_AUDIT_STAMP_START_DATE	
getAccountAttributes(String)	
getUpdateRows(UpdateRow)	getUpdateRows(UpdateRow)
RA_AUDIT_STAMP_FORMAT	

com.waveset.adapter.RACFResourceAdapter

非推奨のメソッド	代替
getAccountAttributes(String)	

com.waveset.adapter.RASecureConnection

非推奨のメソッド	代替
ExchangeAuth(boolean)	ExchangeAuth(boolean,byte[])

com.waveset.adapter.RedHatLinuxResourceAdapter.BlockAcctlter

非推奨のメソッド	代替
BlockAcctlter(int,CaptureList)	BlockAcctlter(SVIDResourceAdapter,CaptureList)

com.waveset.adapter.RequestResourceAdapter

非推奨のメソッド	代替
getAccountAttributes(String)	

com.waveset.adapter.ResourceAdapter

非推奨のメソッド	代替
getAccountAttributes(String)	
getBaseContextAttrName()	getBaseContexts()

com.waveset.adapter.ResourceAdapterBase

非推奨のメソッド	代替
getAccountAttributes(String)	
getAdapter(Resource,LighthouseContext)	getAdapterProxy(Resource,LighthouseContext)
getAdapter(Resource,ObjectCache,WSUser)	getAdapterProxy(Resource,ObjectCache)
getAdapter(Resource,ObjectCache)	getAdapterProxy(Resource,LighthouseContext)
getBaseContextAttrName()	getBaseContexts()
isExcludedAccount(String,Rule)	com.waveset.adapter.ResourceAdapterProxy#isExcludedAccount(String,Map,ResourceOperation,Rule)
isExcludedAccount(String)	com.waveset.adapter.ResourceAdapterProxy#isExcludedAccount(String,Map,ResourceOperation,Rule)

com.waveset.adapter.ResourceAdapterProxy

非推奨のメソッド	代替
getAccountAttributes(String)	
getBaseContextAttrName()	getBaseContexts()

com.waveset.adapter.ResourceManager

非推奨のメソッド	代替
getResourceTypes()	getResourcePrototypes() getResourcePrototypes(ObjectCache,boolean)
getResourceTypeStrings()	getResourcePrototypeNames(ObjectCache)

com.waveset.adapter.SAPHRActiveSyncAdapter

非推奨のフィールド	代替
RA_PROCESS_NAME	com.waveset.adapter.ActiveSync#RA_PROCESS_RULE

com.waveset.adapter.SAPResourceAdapter

非推奨のメソッド	代替
unexpirePassword(String,WavesetResult)	unexpirePassword(String,String,String,WavesetResult)
unexpirePassword(WSUser,WavesetResult)	unexpirePassword(String,String,String,WavesetResult)

com.waveset.adapter.ScriptedConnection

サブクラス	非推奨のメソッド	代替
Script	hasNextToken()	
Script	nextToken()	
ScriptedConnection	disconnect()	com.waveset.adapter.ResourceConnection#disconnect()
ScriptedConnectionFactory	getScriptedConnection(String,HashMap)	com.waveset.adapter.ScriptedConnectionPool#getConnection(HashMap,String,long,boolean)
SSHConnection	disconnect()	disconnect()
TelnetConnection	disconnect()	disconnect()

com.waveset.adapter.ScriptedHostResourceAdapter

非推奨のメソッド	代替
getAccountAttributes(String)	

com.waveset.adapter.SkeletonResourceAdapter

非推奨のメソッド	代替
getAccountAttributes(String)	

com.waveset.adapter.SMEResourceAdapter

非推奨のメソッド	代替
getAccountAttributes(String)	

com.waveset.adapter.SQLServerResourceAdapter

非推奨のメソッド	代替
getAccountAttributes(String)	

com.waveset.adapter.SunAccessManagerResourceAdapter

非推奨のメソッド	代替
getAccountAttributes(String)	
getBaseContextAttrName()	com.waveset.adapter.ResourceAdapter#getBaseContexts()

com.waveset.adapter.SVIDResourceAdapter.BlockAcctlter

非推奨のメソッドまたはフィールド	代替
BlockAcctlter(int,CaptureList)	BlockAcctlter(CaptureList)
BlockAcctlter(SVIDResourceAdapter,CaptureList)	BlockAcctlter(CaptureList)

com.waveset.adapter.SybaseResourceAdapter

非推奨のメソッド	代替
getAccountAttributes(String)	

com.waveset.adapter.TestResourceAdapter

非推奨のメソッド	代替
getAccountAttributes(String)	

com.waveset.adapter.TopSecretResourceAdapter

非推奨のメソッド	代替
hasError(String,String)	hasError(String,String,String)
login(HostAccess hostAccess)	login(HostAccess,ServerAffinity)

com.waveset.adapter.VerityResourceAdapter

非推奨のメソッド	代替
getAccountAttributes(String)	

com.waveset.adapter.XMLResourceAdapter

非推奨のメソッド	代替
getAccountAttributes(String)	

com.waveset.msgcat.Catalog

非推奨のメソッド	代替
getMessage(String,Object[],Locale)	format (Locale,String,Object[])
getMessage(Locale,String,Object[])	format (Locale,String,Object[])
getMessage(Locale,String)	format (Locale,String)
getMessage(String,Locale)	format (Locale,String)
getMessage(String,Object[])	format (Locale,String,Object[])

com.waveset.object.Account

非推奨のメソッド	代替
getUnowned()	hasOwner()
setUnowned(boolean)	setOwner(WSUser)

com.waveset.object.AccountAttributeType

非推奨のメソッド	代替
getAttrType()	getSyntax()
setAttrType(String)	setSyntax(String) setSyntax(Syntax)

com.waveset.object.Attribute

非推奨のメソッドまたはフィールド	代替
BLOCK_SIZE	BLOCK_ROWS_GET BLOCK_ROWS_LIST
EVENTDATE	EVENT_DATETIME
EVENTTIME	EVENT_DATETIME

非推奨のメソッドまたはフィールド	代替
getDbColumnLength()	
getDbColumnName()	
STARTUP_TYPE_AUTO	com.waveset.object.Resource#STARTUP_TYPE_AUTO
STARTUP_TYPE_AUTO_FAILOVER	com.waveset.object.Resource#STARTUP_TYPE_AUTO_FAILOVER
STARTUP_TYPE_DISABLED	com.waveset.object.Resource#STARTUP_TYPE_DISABLED
STARTUP_TYPE_MANUAL	com.waveset.object.Resource#STARTUP_TYPE_MANUAL
STARTUP_TYPES	com.waveset.object.Resource#STARTUP_TYPES
STARTUP_TYPES_DISPLAY_NAMES	com.waveset.object.Resource#STARTUP_TYPES_DISPLAY_NAMES

com.waveset.object.AttributeDefinition

非推奨のメソッド	代替
AttributeDefinition(String,String)	AttributeDefinition(String,Syntax)
setAttrType(String)	setSyntax(Syntax)

com.waveset.object.AuditEvent

非推奨のメソッド	代替
setAttributeMap(Map)	setAuditableAttributes(Map)
addAuditableAttributes(AccountAttributeType[], WSAAttributes)	setAuditableAttributes(Map)
getAttributeMap()	getAuditableAttributes()

非推奨のメソッド	代替
getAttributeValue(String)	getAuditableAttributes()
setAccountAttributesBlob(Map)	setAccountAttributesBlob(Map,Map)
setAccountAttributesBlob(WSAttributes,List)	setAccountAttributesBlob(WSAttributes,WSAttributes,List)

com.waveset.object.CacheManager

非推奨のメソッド	代替
getAllObjects(Type,AttributeCondition[])	listObjects(Type,AttributeCondition[])
getAllObjects(Type,WSAttributes)	listObjects(Type,WSAttributes)
getAllObjects(Type)	listObjects(Type)

com.waveset.object.Constants

非推奨のフィールド	代替
MAX_SUMMARY_STRING_LENGTH	

com.waveset.object.EmailTemplate

非推奨のメソッドまたはフィールド	代替
setToAddress(String)	setTo(String)
getFromAddress()	getFrom()
getToAddress()	getTo()
setFromAddress(String)	setFrom(String)
VAR_FROM_ADDRESS	VAR_FROM
VAR_TO_ADDRESS	VAR_TO

com.waveset.object.Form

非推奨のメソッドまたはフィールド	代替
EL_HELP	com.waveset.object.GenericObject#toMap(int)
getDefaultDataType()	getDefaultSyntax()
getType()	getSyntax()
setType(String)	setSyntax(Syntax)

com.waveset.object.GenericObject

非推奨のメソッド	代替
toMap(boolean)	toMap(String,int)
toMap(String,boolean)	

com.waveset.object.LoginConfig

非推奨のメソッド	代替
getApp(String)	getLoginApp(String)

com.waveset.object.MessageUtil

非推奨のメソッド	代替
getActionDisplayKey(String)	
getEventParmDisplayKey(String)	
getResultDisplayKey(String)	
getTypeDisplayKey(String)	com.waveset.ui.FormUtil#getTypeDisplayName(LighthouseContext,String)

com.waveset.object.RepositoryResult

非推奨のメソッド	代替
get(int)	next()
getId(int)	
getName(int)	
getObject(int)	
getRowCount()	
getRows()	
seek(int)	hasNext() next()
sort()	

com.waveset.object.RepositoryResult.Row

非推奨のメソッド	代替
getSummaryAttributes()	getAttributes()

com.waveset.object.ResourceAttribute

非推奨のメソッド	代替
setType(String)	setSyntax(Syntax)

com.waveset.object.TaskInstance

非推奨のフィールド	代替
DATE_FORMAT	com.waveset.util.Util#stringToDate(String,String) com.waveset.util.Util#getCanonicalDate(Date) com.waveset.util.Util#getCanonicalDate(Date,TimeZone) com.waveset.util.Util#getCanonicalDate(long)
VAR_RESULT_LIMIT	setResultLimit(int) getResultLimit()
VAR_TASK_STATUS	

com.waveset.object.TaskTemplate

非推奨のメソッド	代替
setMode(String)	setExecMode(String)
setMode(TaskDefinition.ExecMode)	setExecMode(TaskDefinition,ExecMode)

com.waveset.object.Type

非推奨のメソッドまたはフィールド	代替
AUDIT_CONFIG	
AUDIT_PRUNER_TASK	
AUDIT_QUERY	
DISCOVERY	
getSubtypes()	getLegacyTypes()
NOTIFY_CONFIG	
REPORT_COUNTER	
SUMMARY_REPORT_TASK	
USAGE_REPORT	
USAGE_REPORT_TASK	

com.waveset.object.UserUIConfig

非推奨のメソッド	代替
getCapabilityGroups()	
getAppletColumns()	getAppletColumnDefs()
getCapabilityGroup(String)	
getCapabilityGroupNames()	
getFindMatchOperatorDisplayNameKeys()	
getFindMatchOperators()	
getFindResultsColumns()	
getFindResultsSortColumn()	
getFindUserDefaultSearchAttribute()	
getFindUserSearchAttributes()	
getFindUserShowAttribute(int)	
getFindUserShowCapabilitiesSearch(int)	
getFindUserShowDisabled(int)	
getFindUserShowOrganizationSearch(int)	
getFindUserShowProvisioningSearch(int)	
getFindUserShowResourcesSearch(int)	
getFindUserShowRoleSearch(int)	

com.waveset.object.ViewMaster

非推奨のメソッド	代替
ViewMaster()	ViewMaster(LighthouseContext)
ViewMaster(String,String)	ViewMaster(LighthouseContext)
ViewMaster(Subject,String)	ViewMaster(LighthouseContext)

com.waveset.session

サブクラス	非推奨のメソッドまたはフィールド	代替
Session	listApprovers()	getAdministrators(Map)
	listControlledApprovers()	getAdministrators(Map)
	listSimilarApprovers(String adminName)	getAdministrators(Map)
SessionFactory	getApp(String)	getLoginApp(String)
	getApps()	getLoginApps()
WorkflowServices	ARG_TASK_DATE	com.waveset.object.Attribute#DATE

com.waveset.task.TaskContext

非推奨のメソッド	代替
getAccessPolicy()	
getRepository()	

com.waveset.ui.util.FormUtil

非推奨のメソッド	代替
getAdministrators(Session,List)	getUsers(LighthouseContext,Map)
getAdministrators(Session,Map)	getUsers(LighthouseContext,Map)
getApplications(LighthouseContext,List)	getApplications(LighthouseContext,Map)
getApplications(LighthouseContext)	getApplications(LighthouseContext,Map)
getApproverNames(Session,List)	getUsers(LighthouseContext,Map)
getApproverNames(Session)	getUsers(LighthouseContext,Map)
getApprovers(Session,List)	getUsers(LighthouseContext,Map)
getApprovers(Session)	getUsers(LighthouseContext,Map)

非推奨のメソッド	代替
getCapabilities(LighthouseContext,List,Map)	getCapabilities(LighthouseContext,Map)
getCapabilities(LighthouseContext,List)	getCapabilities(LighthouseContext,Map)
getCapabilities(LighthouseContext,String,String)	getCapabilities(LighthouseContext,Map)
getCapabilities(LighthouseContext)	getCapabilities(LighthouseContext,Map)
getObjectNames(LighthouseContext,String,List,Map)	getObjectNames(LighthouseContext,String,Map)
getObjectNames(LighthouseContext,String,List)	getObjectNames(LighthouseContext,String,Map)
getObjectNames(LighthouseContext,String,String,String,List,Map)	getObjectNames(LighthouseContext,String,Map)
getObjectNames(LighthouseContext,String,String,String,List)	getObjectNames(LighthouseContext,String,Map)
getObjectNames(LighthouseContext,Type,String,String,List,Map)	getObjectNames(LighthouseContext,String,Map)
getObjectNames(LighthouseContext,Type,String,String,List)	getObjectNames(LighthouseContext,String,Map)
getOrganizations(LighthouseContext,boolean,List)	getOrganizationsDisplayNames(LighthouseContext,Map)
getOrganizations(LighthouseContext,boolean)	getOrganizationsDisplayNames(LighthouseContext,Map)
getOrganizations(LighthouseContext,List)	getOrganizationsDisplayNames(LighthouseContext,Map)
getOrganizations(LighthouseContext)	getOrganizationsDisplayNames(LighthouseContext,Map)
getOrganizationsDisplayNames(LighthouseContext,boolean,List)	getOrganizationsDisplayNames(LighthouseContext,Map)
getOrganizationsDisplayNames(LighthouseContext,boolean)	getOrganizationsDisplayNames(LighthouseContext,Map)
getOrganizationsDisplayNames(LighthouseContext)	getOrganizationsDisplayNames(LighthouseContext,Map)
getOrganizationsDisplayNamesWithPrefixes(LighthouseContext,List)	getOrganizationsDisplayNames(LighthouseContext,Map)
getOrganizationsDisplayNamesWithPrefixes(LighthouseContext)	getOrganizationsDisplayNames(LighthouseContext,Map)
getOrganizationsWithPrefixes(LighthouseContext,List)	getOrganizationsDisplayNames(LighthouseContext,Map)

非推奨のメソッドとフィールド

非推奨のメソッド	代替
getOrganizationsWithPrefixes(LighthouseContext)	getOrganizationsDisplayNames(LighthouseContext, Map)
getSimilarApproverNames(Session, String)	getUsers(LighthouseContext, Map)
getSimilarApproverNames(Session)	getUsers(LighthouseContext, Map)
getSimilarApprovers(Session, String)	getUsers(LighthouseContext, Map)
getSimilarApprovers(Session)	getUsers(LighthouseContext, Map)
getUnassignedOrganizations(LighthouseContext, List)	getOrganizationsDisplayNames(LighthouseContext, Map)
getUnassignedOrganizations(LighthouseContext)	getOrganizationsDisplayNames(LighthouseContext, Map)
getUnassignedOrganizationsDisplayNames(LighthouseContext, List)	getOrganizationsDisplayNames(LighthouseContext, Map)
getUnassignedOrganizationsDisplayNames(LighthouseContext, Map)	getOrganizationsDisplayNames(LighthouseContext, Map)
getUnassignedOrganizationsDisplayNames(LighthouseContext)	getOrganizationsDisplayNames(LighthouseContext, Map)
getUnassignedOrganizationsDisplayNamesWithPrefixes(LighthouseContext, List)	getOrganizationsDisplayNames(LighthouseContext, Map)
getUnassignedOrganizationsDisplayNamesWithPrefixes(LighthouseContext)	getOrganizationsDisplayNames(LighthouseContext, Map)
getUnassignedOrganizationsWithPrefixes(LighthouseContext, List)	getOrganizationsDisplayNames(LighthouseContext, Map)
getUnassignedOrganizationsWithPrefixes(LighthouseContext)	getOrganizationsDisplayNames(LighthouseContext, Map)
getUnassignedResources(LighthouseContext, List, List)	getUnassignedResources(LighthouseContext, Map)
getUnassignedResources(LighthouseContext, String, List)	getUnassignedResources(LighthouseContext, Map)
getUnassignedResources(LighthouseContext, String)	getUnassignedResources(LighthouseContext, Map)

com.waveset.ui.util.html

サブクラス	非推奨のメソッドまたはフィールド	代替
Component	isNoWrap()	
	setHelpKey(String)	
	setNoWrap(boolean)	
HtmlHeader	NORMAL_BODY	
MultiSelect	isLockhart()	
	setLockhart(boolean)	
WizardPanel	setPreviousLabel(String)	setPrevLabel(String)

com.waveset.util.JSSE

非推奨のメソッド	代替
installIfAvailable()	

com.waveset.util.PdfReportRenderer

非推奨のメソッド	代替
render(Element,boolean,String,OutputStream)	render(Element,boolean,String,OutputStream,String,boolean)
render(Element,boolean,String)	render(Element,boolean,String,String,boolean)
render(Report,boolean,String,OutputStream)	render(Report,boolean,String,OutputStream,String,boolean)
render(Report,boolean,String)	render(String,boolean,String,String,boolean)

com.waveset.util.Quota

非推奨のメソッド	代替
getQuota()	

com.waveset.util.ReportRenderer

非推奨のメソッドまたはフィールド	代替
renderToPdf(Report,boolean,String,OutputStream)	renderToPdf(Report,boolean,String,OutputStream,String,boolean)
renderToPdf(Report,boolean,String)	renderToPdf(Report,boolean,String,String,boolean)

com.waveset.util.Trace

非推奨のメソッド	代替
data(long,Object,String,byte[])	com.sun.idm.logging.trace.Trace#data(long,String,byte[])
entry(long,Object,String,Object[])	com.sun.idm.logging.trace.Trace#entry(long,String,Object[])
entry(long,Object,String,String)	com.sun.idm.logging.trace.Trace#entry(long,String)
entry(long,Object,String)	com.sun.idm.logging.trace.Trace#entry(long,String)
exception(long,Object,String,t)	com.sun.idm.logging.trace.Trace#throwing(long,String,Throwable) com.sun.idm.logging.trace.Trace#caught(long,String,Throwable)
exit(long,Object,String,boolean)	com.sun.idm.logging.trace.Trace#exit(long,String,boolean)
exit(long,Object,String,int)	com.sun.idm.logging.trace.Trace#exit(long,String,int)
exit(long,Object,String,long)	com.sun.idm.logging.trace.Trace#exit(long,String,long)
exit(long,Object,String,Object)	com.sun.idm.logging.trace.Trace#exit(long,String,Object)
exit(long,Object,String)	com.sun.idm.logging.trace.Trace#exit(long,String)

非推奨のメソッド	代替
getTrace()	com.sun.idm.logging.trace.TraceManager#getTrace(String)
getTrace(Class)	com.sun.idm.logging.trace.TraceManager#getTrace(String)
getTrace(String)	com.sun.idm.logging.trace.TraceManager#getTrace(String)
level1(Class,String)	com.sun.idm.logging.trace.Trace#level1(String)
level1(Object,String)	com.sun.idm.logging.trace.Trace#level1(String)
level2(Class,String)	com.sun.idm.logging.trace.Trace#level2(String)
level2(Object,String)	com.sun.idm.logging.trace.Trace#level2(String)
level3(Class,String)	com.sun.idm.logging.trace.Trace#level3(String)
level3(Object,String)	com.sun.idm.logging.trace.Trace#level3(String)
level4(Class,String)	com.sun.idm.logging.trace.Trace#level4(String)
level4(Object,String)	com.sun.idm.logging.trace.Trace#level4(String)
variable(long,Object,String,String,boolean)	com.sun.idm.logging.trace.Trace#variable(long,String,String,boolean)
variable(long,Object,String,String,int)	com.sun.idm.logging.trace.Trace#variable(long,String,String,int)
variable(long,Object,String,String,long)	com.sun.idm.logging.trace.Trace#variable(long,String,String,long)
variable(long,Object,String,String,Object)	com.sun.idm.logging.trace.Trace#variable(long,String,String,Object)
void info(long,Object,String,String)	com.sun.idm.logging.trace.Trace#info(long,String,String)

com.waveset.util.Util

非推奨のメソッドまたはフィールド	代替
DATE_FORMAT_CANONICAL	stringToDate(String,String) getCanonicalDate(Date) getCanonicalDate(Date,TimeZone) getCanonicalDate(long)
debug(Object)	
getCanonicalDateFormat()	stringToDate(String,String) getCanonicalDate(Date) getCanonicalDate(Date,TimeZone) getCanonicalDate(long)
getOldCanonicalDateString(Date,boolean)	getCanonicalDateString(Date)
rfc2396URLPieceEncode(String,String)	com.waveset.util.RFC2396URLPieceEncode#encode(String,String)
rfc2396URLPieceEncode(String)	com.waveset.util.RFC2396URLPieceEncode#encode(String)

com.waveset.workflow.WorkflowContext

非推奨のフィールド	代替
VAR_CASE_TERMINATED	com.waveset.object.WFProcess#VAR_CASE_TERMINATED